

平成 25 年度大槌デザイン会議成果 大槌デザインノート

平成 26 年 3 月 4 日 (火) 第 6 回デザイン会議

平成 25 年度大槌デザイン会議成果

大槌デザインノート

目次

1. 全地区に共通する公共空間・施設のデザイン方針	2
2. 地区別デザインノート	
2-1 町方地区	3
2-2 沢山地区	1 0
2-3 小枕地区	1 4
2-4 安渡地区	1 9
2-5 赤浜地区	2 8
2-6 吉里吉里地区	3 3
2-7 浪板地区	4 1
3. 策定経緯・参加者名簿	4 6

大槌デザインノート

全地区に共通する公共空間・施設のデザイン方針

・基盤整備を進めていくうえで、以下の三点を、今後の各地区のまちづくり及び景観形成の要に位置づけ、設計の質に反映させる。

1) 歩きたくなる町を実現するうえで重要な公共空間・施設

(＝歩行空間ネットワークの要所)

2) 地区住民の日常的な居場所となる公共空間・施設

(＝ご近所や町内など身近なコミュニティで共用する空間)

3) 町全体／各地区の自然・歴史伝統・生活文化・住民の価値観・復興への思いを象徴もしくは代表する場所や施設（各地区ごとに設定）

・個々の設計（デザイン）については、ワークショップなどを通じて地区住民とコミュニケーションを図りながら、その内容と質を検討する。

注：

1) 2) の例：道、広場、公園、集会施設、にぎわいの創出が求められる街区など。

とくに、日常的に住民の居場所となり、かつ非常時に避難上の目印もしくは拠点となる場所は、最重要。

3) の例：歴史的な道筋、海が眺められる道、湧水のある広場、・・・など。詳細は各地区デザインノートに記述。

平成 25 年度大槌デザイン会議成果 大槌デザインノート

町方地区

町方地区 デザインノート

【町方地区の復興まちづくりの基本方針】

1. 大槌の歴史を伝える土地に集まって住む

・有事の際には地域における普段の交流が重要であるため、日常の交流密度が高い暮らしを目指す
→高台ではなく歴史的生活圈である城山のふもとに集まって住み、地域の人々がバラバラに住むのを防ぐ

『大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画 H23.12.』

2. 避難時の行動と日常生活を一致させる（街路と公園・広場の考え方）

・有事の際に避難につかう道を、普段から歩きたくないような生活を豊かにする道として整備する

『第1回町方地区復興まちづくり懇談会資料 H24.6.』

3. 町方の風土と暮らしの記憶を未来につなぐ

・山と海に囲まれ、自噴する湧水と豊かな生態系に恵まれた大槌の自然を活かす
・大槌の歴史的な中心地区として、大槌の歴史を伝える貴重な資源を伝えていく
（旧道の骨格／御社地／大槌小鎚の境／寺社など）
・町方の暮らしの記憶を未来に伝える
（自噴井（水舟／キッツ）／旭通り／七軒町通り／寺町通り／路地／
低層高密度なまちなみ／用水など）

『第1～5回末広町 WS／第1回大町 WS／第1～5回上町・本町 WS H25.7-H26.2、町方地区別 WG』等より（詳細は後述）

4. 大槌の中心地としての役割を担う

■大槌の玄関口（駅と駅前のデザイン）

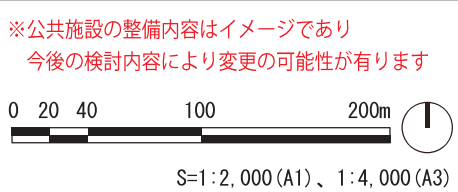
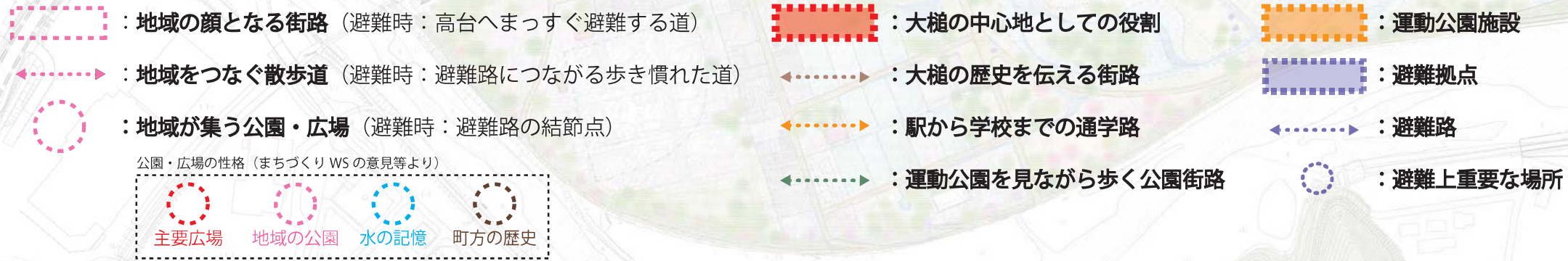
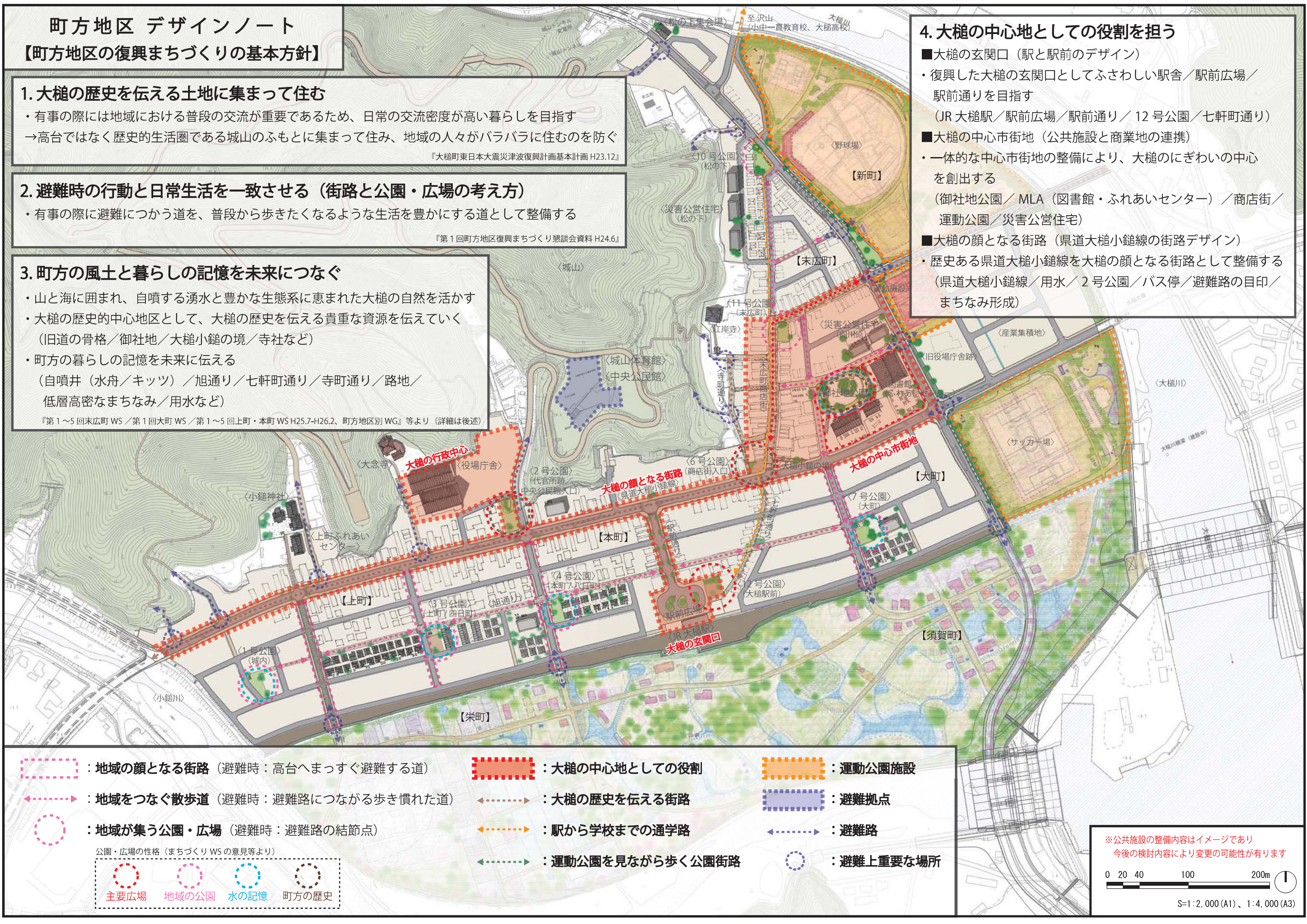
・復興した大槌の玄関口としてふさわしい駅舎／駅前広場／駅前通りを目指す
（JR 大槌駅／駅前広場／駅前通り／12号公園／七軒町通り）

■大槌の中心市街地（公共施設と商業地の連携）

・一体的な中心市街地の整備により、大槌のにぎわいの中心を創出する
（御社地公園／MLA（図書館・ふれあいセンター）／商店街／運動公園／災害公営住宅）

■大槌の顔となる街路（県道大槌小鎚線の街路デザイン）

・歴史ある県道大槌小鎚線が大槌の顔となる街路として整備する
（県道大槌小鎚線／用水／2号公園／バス停／避難路の目印／まちなみ形成）



(小)中一貫教育校、

・地域の人が集まる場所であり、祭りの際、水神様の御神輿のお休み処から御神輿の折り返し地点となる施設のため、元の位置に再建する

- ・復興まちづくりデザイン方針

- ・デザイン方針の根拠となる住民意見
 - (1)～(5)：第1～5回末広町WS
 - (A)：第1回大町WS
 - ②,④,⑤：第2,4,5回地区別WG

※公共施設の整備内容はイメージであり
今後の検討内容により変更の可能性が有ります



- ・松の下に住民と通学する子供達、運動公園の利用者が触れ合える公園
- ・地域の人が入り込める花壇やベンチなどを設け、周囲に集約した地域のお店と一体的に利用できる

- ・小さくて良いので、地域住民で手入れができる花壇やベンチ、目除けがあればよい (3.4)
- ・公園周辺に日常的な買い物や飲食ができる商店を集約し、松の下地区の中心としたい (4.5)

- ・隣の街区に戸建再建をする家に対して、圧迫感が無いよう配慮する。
- ・近隣に暮らす住民に影響が大きいため、外構や外観のデザインについて十分配慮する
- ・公営の住民や近隣の入達が集まる場所を考える

- ・災害公営住宅とその周辺の開わり方や、外観・間取りのデザインなどに松の下らしさを取り入れるための話し合いの場があると良い (4)
- ・棟・棟の間にそれぞれの住民が集まれるちよとした休憩所があると良い (4)

- ・祭りやイベントの際に地域で活用できる公園
- ・末広町商店街から安渡橋に向かってT字路付近の駐車場が、イベントスペースを設けた場所

- ・商店街のまちなみと調和した分かりやすく使いやすい共同駐車場
- ・震災前と同程度の共同の駐車場を分かりやすい場所に整備して欲しい (2.4)

- ・旧街道の歴史性を大事にしながら、買物や散策にきた人や、通学する子供達が親しみを持って歩けるような暖かい道路デザインとする
- ・段差が少なく高齢者でも歩きやすい舗装と商店の並ぶ町並みで商店街らしい風景をつくる

- ・大槌の商業地として一番歴史がある通りなので、町民に親しんでもらえるような通りにして欲しい (1)
- ・歩道はアスファルトではなく、末広町らしいデザインの舗装にして欲しい (2)
- ・高齢者や車イス利用者が安全に通行できる歩道にして車道と歩道の段差をなくして欲しい (3)

- 県道、七軒町通り、末広町商店街の接点であり、旧街道・案内板やベンチ、植栽、休憩スペースなどを設けた商店街街景の入口（顔）となる公園
- 歴史性にも配慮したデザイン

- ・6号公園は商店街の入り口（顔）なので、ベンチや植栽、案内板などを配置した小さな休憩スペースを設ける（2,4,5）

- ・大槌町の町並みを伝える道として整備するとともに、通字路、散策路として、歩いて楽しい道としてデザイン
- ・大槌の歴史の一つとして残した方がよい (A)

- ・大槌町の町並みを伝える道として整備するとともに、通字路、散策路として、歩いて楽しい道としてデザイン
- ・大槌の歴史の一つとして残した方がよい (A)

- ・大町に多くあった湧水の記憶を活かした子どもにも安全な公園

- ・公園の一部を掘り込んで自噴井を残すのは良いと思うが、子どもたちが安全に水遊びができるに配慮して欲しい (A)

- ・地域に対して圧迫感が無いよう配慮するとともに、地域との関係性やデザインについて十分配慮する

- ・地域に対して圧迫感が無いよう配慮するとともに、地域との関係性やデザインについて十分配慮する

- ・大槌町の歴史を伝える重要な骨格を残す大町方面からの避難路としての利用

- ・大槌町の歴史を伝える重要な骨格を残す大町方面からの避難路としての利用
- ・歴史的な意味がある大槌小鎧の境の道路を残す（1,4）

- ・大町に多くあった湧水の記憶を活かした子どもにも安全な公園

- ・公園の一部を掘り込んで自噴井を残すのは良いと思うが、子どもたちが安全に水遊びができるに配慮して欲しい (A)

- ・地域に対して圧迫感が無いよう配慮するとともに、地域との関係性やデザインについて十分配慮する

- ・地域に対して圧迫感が無いよう配慮するとともに、地域との関係性やデザインについて十分配慮する

- ・地域の人が集まる場所として、大樋の歴史生活を伝え、湧水の活用や祭りの際の利用などを考慮するとともに、大樋の人の拠り所となる中心地として整備
- ・即身仏、天神様などに十分考慮

- ・人が集まってゆっくり過ごせる場所や震災前のように盆踊りができるようなスペースを確保して欲しい (1,4)②
- ・池周辺にある程度の平場を確保するのであれば、盛土する必要はない (A)
- ・御社で整備する際には、是非湧水を使用して欲しい (A)
- ・津波で流された碑や即身仏を元の位置に戻して欲しい (1)
- ・池を残せば良いという訳ではなく、記念碑など全体的な歴史的意味も含めて一体的に整備して欲しい⑤
- ・大雨時の排水や避難について住民に配慮した公園を設計して欲しい (3)



御社地公園イメージ図

町方地区 デザインノート

【上町・本町の復興まちづくりデザイン方針】

〈施設名〉

・復興まちづくりデザイン方針

・デザイン方針の根拠となる住民意見
(1)～(5): 第1～5回上町・本町WS
②,④,⑤: 第2,4,5回地区別WG



S=1:1,000 (A1)、1:2,000 (A3)

※公共施設の整備内容はイメージであり
今後の検討内容により変更の可能性があります

〈県道大槌小鉮線〉

- ・大槌町の歴史ある街路として、地域コミュニティを醸成する生活感ある密度の高い町並み形成を目指す
- ・具体的には、町のイメージを分断する印象を与える植栽帯や高木の列植を設けず、広場や公園、避難の目印になる箇所ポイントとして効果的に高木を配置
- ・また、揚水が持続的に可能であるかを十分に検討した上で、公園や広場沿いなど、公共性が高い箇所での水路設置の検討を行う

- ・大槌らしさ（道、水路）を継承したまちづくりを行わなければ、住民が減ってしまう (1)
- ・間口は震災前と同じにして、昔の面影を残し、城下町としての文化・景観を残すまちづくりをしていきたい (1,5)
- ・幅員 16m の方がまちの規模に見合っており、向かいの家とのコミュニケーションがとりやすくなる (4)②
- ・生活者の目線で設計し、生活感のある道路にして欲しい (4)
- ・植栽帯は管理が大変なので、植栽樹などで一部に設ける程度でよい (3,4)
- ・交差点や公園等、避難の目印となる場所に樹木や街灯を設置して欲しい (4)
- ・山火事を消すときや雪を溶かすのに役立つため、片側だけでもいいので水路は欲しい (1,2,3,4,5) ②
- ・お祭りの御神輿の通行や見物がしやすいように配慮して欲しい (4)

〈バス停〉

- ・バス停に休憩できる場所を整備
- ・バス停のような休める場所が欲しい (3)

〈災害公営住宅_戸建/長屋〉

- ・通りと一体となって地域の町並みにあった整備
- ・都市部の郊外にある分譲住宅地のようなまちなみでは大槌らしさが失われるからよくないと思う (1)

〈2号公園_代官所跡/中央公民館入口〉

- ・中央公民館への入口、役場庁舎の利用の多い場所にあり、代官所跡の史跡と一体となった顔となる公園
- ・揚水が可能な場合、水を活かした整備
- ・広場にせせらぎ水路があると良い (4)
- ・役場前の交差点付近に休める場所を整備して欲しい (5)

〈大念寺〉

〈役場庁舎〉

〈小鉮神社〉

〈上町ふれあいセンター〉

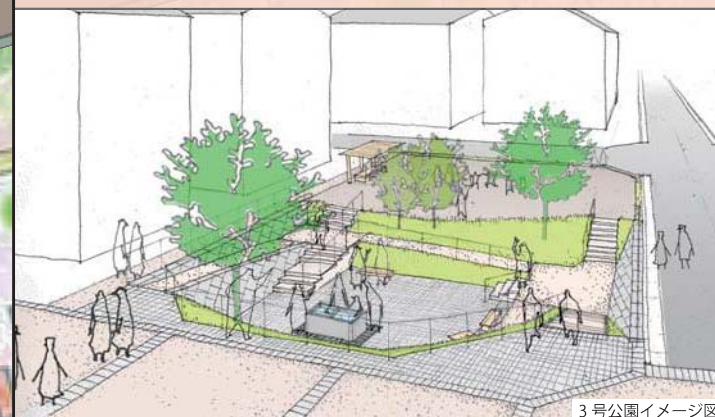
避難の目印になる箇所には、高木植栽や街灯などを効果的に設置する

湧水を巡る散策路
旭通り

災害公営住宅イメージ

〈3号公園_四日町〉

- ・近隣にあった旭の井戸など、共用井戸の記憶を活かした公園
- ・湧水を活かした公園をつくりたい (3)
- ・利用者が多かった「旭の井戸」が保全できない場合、近くにある公園に井戸を再生して欲しい (3)



3号公園イメージ図

〈災害公営住宅_集合〉

- ・地域に対して圧迫感がないよう配慮

〈旭通り〉

- ・被災前、「旭の井戸」をはじめ共用井戸が多く存在していた旭通りを湧水を活かした公園を巡る散策路として整備
- ・歩きやすく温かみのある舗装など、魅力的な街路デザインを目指す
- ・自噴井戸のある公園や災害公営住宅を繋いで散策路をつくるという案については賛成 (4)
- ・散策路（旭通り）を子どもが通ることを考えれば、歩く部分をカラー舗装にするなどの安全対策が必要 (4)
- ・散歩の経路・ポイントを掲示したほうが良い②

〈4号公園_八日町〉

- ・湧水を活かした公園
- ・旭通りや歩道と一体となった地域で使いやすい公園
- ・有事に避難の目印となる機能を持った公園
- ・旭通り沿いの公園は、敷地の一部をすり鉢状にして湧水が自噴するようにしてもらいたい (3,5)
- ・公園は、分散した方が住民にとっては使いやすい (3)

〈駅前通り、駅前広場+1号広場〉

- ・町の玄関口としてふさわしい街路・広場のデザイン
- ・並木の整備や水を活かした修景
- ・交通機能を出る限りコンパクトにし、人のための駅前広場を整備
- ・駅前通りとしての風景が成り立つよう、商業の集積を目指す
- ・町の玄関になるので、駅前通りや広場は整備して欲しい (4)
- ・駅前通りや広場にせせらぎ水路があると良い (4)
- ・水路は水面が見える形で整備して欲しい (4)
- ・駅周辺に商店を集めて欲しい (3)

〈1号公園_城内〉

- ・城内の地域のこども達が安心して遊べる見通しが良い公園
- ・旭通りの起点として、湧水を活かした公園
- ・防犯対策として、周りから公園内を見守ることができるような工夫をして欲しい (3)
- ・公園ひとつひとつに特徴を持たせ、公園巡りができる散歩道をいくつか整備して欲しい②

〈小鉮神社の参道への道〉

- ・JR山田線南側から小鉮神社まで続く参道をイメージした整備を行い、日常の散策路とするとともに避難時に方向性がわかりやすい整備
- ・歩行者が城山に向かって安全に縦方向に避難できる道路を計画すべきである (4)
- ・参道の名残をイメージした散歩道の整備が望ましい②

町方地区(末広町) まちづくりに関する住民意見

凡例

- ①: 第1回末広町まちづくりワークショップ(2013/07/09)
- ②: 第2回末広町まちづくりワークショップ(2013/07/23)
- ③: 第3回末広町まちづくりワークショップ(2013/08/10)
- ④: 第4回末広町まちづくりワークショップ(2013/08/25)
- ⑤: 第5回末広町・大町合同まちづくりワークショップ(2014/01/29)
- ⑥: 第2回地区別ワーキング(2013/06/26)
- ⑦: 第4回地区別ワーキング(2013/10/17)
- ⑧: 第5回地区別ワーキング(2013/12/19)

■水害対策

○要望・提案

- ・蓮乗寺の裏山には**大雨時に水が出る**ところがあるので対策が必要。①
- ・大雨の後は蓮乗寺の上の方から水がくる。**水対策**をしっかりとりたい。③

■災害公営住宅(松の下)

○要望・提案

- ・災害公営住宅を**一次避難所**としても使用できるようにしたらどうか。①
- ・屋上から**ブリッジで城山へ**逃げられるようにして欲しい。①②
- ・コミュニティの再生を促すために、同じ地区の人たちを階にまとめてはどうか。④
- ・火災の際の延焼や煙の広がりなどを考えると、**2棟以上に分けた方が火災防災上良い**。④
- ・2棟ぐらいに分けてその間を人が通れた方が山への津波避難がしやすい。④
- ・棟と棟の間は**渡り廊下**で繋げてもよい。④
- ・棟と棟の間にそれぞれの住民が集まれるちょっとした**休憩場所**があると良い。④
- ・**外観や間取りのデザイン**などに**松の下らしさ**を取り入れるための話し合いの場があるとよい。④
- ・災害公営住宅とその周辺との関わり方についての話し合いの場があるとよい。④

■避難道

▽震災時の状況

- ・避難ルートは、御社地から末広町商店街に抜けて、旧街道を北上し、江岸寺に曲がって、城山に上るルートだった。①

○要望・提案

- ・避難に使う道路の**拡幅**が必要。① ・避難路の標識や案内図が必要。⑤
- ・**城山へ逃げる避難路**について、**車で逃げたい**という意見もあるので、車道についても検討だけはして欲しい。①
- ・最低でも**徒歩で逃げられるような避難路**は確保して欲しい。①

■末広町商店街、旧街道

○要望・提案

- ・震災前は**通行止めにして祭りやイベント(よ市)**を開催していた。復興後も復活させたい。①
- ・大槌の商業地として**一番歴史がある通り**なので、**町民に親しんでもらえるような通り**にして欲しい。①
- ・事業所のみを集約するのではなく、これまでのような商店を含む**事業所と住宅が混在する形**でも良い。①⑧
- ・歩道はアスファルトではなく、**末広町らしいデザインの舗装**にして欲しい。②
- ・高齢者や車イス利用者が安全に通行できる歩道にして、**車道と歩道の段差をなくして欲しい**。③
- ・植栽は管理が大変なので不要。④ ・くつろげる場所を併設したような集合型商店も良いと思う。⑧
- ・**商店街にふさわしい街路灯**を設置して、バナーやプランターをつり下げたい。④⑤
- ・震災前は電柱が通行の邪魔になっていたの、できれば**埋設**して欲しい。④

■公園(末広町商店街沿い)

○提案・要望

- ・6号公園が予定されている交差点は、交通量が多く子供の交通事故が懸念されるため、末広町商店街から安渡橋に向かう**下字路付近の駐車場があった場所に移動**(11号公園)して、イベントスペースを設ける。①②④
- ・6号公園は、**商店街の入り口(顔)**なので、ベンチや植栽、案内板などを配置した小さな休憩スペースを設ける。②④⑤

■駐車場

▽震災前の状況

- ・末広町商店街付近で4箇所計約60台分の共同の駐車場があり、地域住民の自家用と各事業所の来客者用として使用していた。②
- ・来客者は、**店先の道路上に駐車**していた。②

○提案・要望

- ・道路沿いに**釜石市大町のような停車スペース**があるとよい。①②
- ・震災前と同程度の共同の**駐車場を分かりやすい場所に整備**して欲しい。②④

■大槌小槌の境

○要望・提案

- ・**歴史的な意味がある大槌小槌の境**の道路を残す。①④

■神輿の経路

- ・被災前の道路網とあまり変わらない計画なので特に問題はない。③
- ・家の張り付き方も変わるので、元の経路に拘らなくて良い。③

■公園(松の下)

○要望・提案

- ・小さくて良いので、**地域住民で手入れができる花壇、ベンチ、日除け**があればよい。③④
- ・公園の周辺に日常的な**買い物や飲食ができる商店を集約し、松の下地区の中心**とする。④⑤
- ・デザインや花壇についての話し合いの場があるとよい。④
- ・公園と周辺の関係についての話し合いの場があるとよい。④
- ・公園に**旧町名**を付けて欲しい(「松の下公園」など)。⑥

■通り抜けの小径

▽震災前の状況

- ・民地だったが、**家と家の間を通り抜けられるところ**があった。②

○要望・提案

- ・公園の面積が減っても良いので、以前のような**通り抜けができる小径を整備**して欲しい。④⑤
- ・**災害公営住宅の動線と小径がつながっていたり、小径と広場が一体的**になっていると良い。②④

■地区内道路

○要望・提案

- ・途中に広場を設けるなどの中途半端な道路にせずに、**すっきりした道路**にするべきである。⑦
- ・松の下の地区内道路はゾーン30で良いと思う。⑤

■災害公営住宅(御社地北)

●懸念

- ・5階建ての災害公営住宅が御社地の周囲に建つと思うと、**圧迫感**を感じる。④

○要望・提案

- ・公園への圧迫感を軽減するため、**災害公営住宅は御社地から離れた方がいい**。③
- ・災害公営住宅を避難時に利用することはできないか。③

■御社地

▽震災前の状況

- ・地域にとって**憩いの場であり、いつでも人が集まる場所**だった。①⑥
- ・昔の池は、底が土で側面が板柵だった。②
- ・御社地公園駐車場は、イベントの開催など多様な利用方法があった。④
- ・昔は、赤い太鼓橋があり、料亭や置屋があった。⑥
- 要望・提案
- ・震災前のように**盆踊りができるようなスペース**を確保して欲しい。①
- ・津波で流された**碑、即身仏を元の位置**に戻して欲しい。①
- ・自然豊かな池にして欲しい。② ・池で遊べる公園が望ましい。⑥
- ・大雨時の**排水や避難について十分配慮**した公園を設計して欲しい。③
- ・震災前のように御社地の**隣に集合駐車場**があった方がいい。④
- ・**人が集まってゆっくり過ごせる場所**にして欲しい。④
- ・御社地は池だけ残せば良いという訳ではない。記念碑など、**全体的な歴史的意味も含めて一体的に整備**して欲しい。⑧

■MLA(図書館・ふれあいセンターの合築施設)

▽震災前の状況

- ・以前のふれあいセンターは、3階建ての建物で圧迫感があった。③

○要望・提案

- ・これまでは大槌の歴史・文化を発信できていなかったの、MLAを**歴史・文化に関する情報発信拠点**にしたい。③
- ・以前のふれあいセンターでは、会議や趣味の集まり、子ども会など、色々な利用があったので、MLAがその代わりになって欲しい。③

■路地

▽震災前の状況

- ・末広町商店街と御社地を結ぶ住宅地との間の通り道は、私道だったがスーパーに行くために利用していたが、スーパーがなくなったら利用しなくなるだろう。④
- ・**道の存在を知っている人にとっては便利**だったので、駐車場とセットならば、路地が生きるかもしれない。④

■土地の形状

○要望・提案

- ・**間口を広げて、土地の形状を整形**にすれば、様々な土地利用ができるようになって再建しやすい。①
- ・生活上で車は必須であり、できれば各戸に2台分の駐車スペースを確保したい。①

町方地区(上町・本町) まちづくりに関する住民意見

凡例

- ①: 第1回上町・本町まちづくりワークショップ(2013/09/27)
- ②: 第2回上町・本町まちづくりワークショップ(2013/10/12)
- ③: 第3回上町・本町まちづくりワークショップ(2013/10/23)
- ④: 第4回上町・本町まちづくりワークショップ(2013/11/09)
- ⑤: 第5回上町・本町まちづくりワークショップ(2014/01/29)
- ⑥: 第2回地区別ワーキング(2013/06/26)
- ⑦: 第4回地区別ワーキング(2013/10/17)
- ⑧: 第5回地区別ワーキング(2013/12/19)

■県道 大槌小鎚線

●懸念

- ・幅員が18mになると「コミュニティが分断される」、「横断歩道が渡りづらくなる」、「自動車や自転車がスピードを出しやすくなる」などが懸念される。①②
- ・県道が広くなっても城山へ上がる脇道が狭ければ意味がない。①
- ・街路樹は視界不良の原因となり、植栽帯は管理が大変。**植栽は広場等で確保**すれば良い。②
- ・停車帯を設置すると、違法駐車が増え、県道沿いの各戸へ出入り際の支障となる可能性がある。①④

○要望・提案

- ・ただの平らな歩道にはして欲しくない。①
- ・火災の際の延焼防止のために街路樹は必要。**樹種は管理に手間のかからないもの**が良い。①④
- ・植栽帯は管理が大変なので**植栽柵などで一部に設ける**程度で良い。③④
- ・植栽帯の代わりに自転車を走らせる幅を確保し、歩道を狭くしたらどうか?③
- ・今後人口が減ることが予測され、交通量も減るだろうから、**広い幅員は必要ない**。②③⑧
- ・**自転車レーンの設置や自動車を減速させるような工夫**を考えて欲しい。②
- ・排水・冠水・騒音・路面反射の観点から、**しっかりした舗装**にして欲しい。②④
- ・バス停のような**休める場所**が欲しい。③
- ・「城内」というようなイメージがわくような街灯を設置して欲しい。③
- ・幅員16mの方が町の規模に見合っており、向かいの家との**コミュニケーション**が取りやすくなる。④⑥
- ・来客用の停車や荷さばき、バスの停車のことを考えると**停車帯は必要**。④
- ・生活者の目線で設計し、**生活感のある道路**にして欲しい。④
- ・お祭りの御神輿の通行や見物がしやすいように配慮して欲しい。④

■高台

○要望・提案

- ・昔、野球や花見をしていた高台に、**災害公営住宅や一時避難所**を整備して有効利用できないか。②

■水路(防火用)

○要望・提案

- ・片側だけでもいいので水路は欲しい。**山火事を消す**ときや**雪を融かす**のに役立つ。①②③④⑤⑥
- ・非常時に調整して、水を多く流すことはできないか。⑤
- ・水路を整備するのなら、水が常に流れていることが大前提。水が流れない水路は不衛生。⑦
- ・水路は道路の両側にあったほうが除雪しやすい。③
- ・水路は**開水路の方が良い**が、安全面・衛生面を考えれば蓋を設置するのはやむを得ない。③
- ・転落防止や車両の乗り入れのことを考えると、水路の**蓋は必要**である。③
- ・住民で維持管理ができるように、水路の蓋は部分的に開け閉めが容易な網状のものなどが良い。②③
- ・**維持管理費**がかかるので、ポンプアップしてまで整備しない方がいい。④⑧
- ・消防署や消防団が必要ないというのであれば、防火用の水路は整備しなくてよい。④

■避難

○要望・提案

- ・歩いて**城山に避難**でき、中央公民館まで通じる道が必要。③
- ・避難路には上り易い階段を作ったほうが良い。⑤
- ・城山の**山裾に階段**でも良いので、歩いて上れる場所をたくさん作ってもらいたい。③
- ・歩行者が城山に向かって**安全に縦方向に避難**できる道路を計画すべきである。④
- ・**避難タワー**のようなものが避難経路の途中にあると良い。②
- ・**災害公営住宅を避難施設**として使用したいので、5階建てにして1階に集会所機能をつけてほしい。③
- ・交差点や公園等、避難の**目印となる場所に樹木や街灯**を設置して欲しい。④
- ・車で避難しないような**防災教育**をするべきである。②
- ・避難道は**早急に整備**して欲しい。⑤
- ・**避難路の目印となっている社**が住宅の陰に隠れたので、今回の整備を機に見えるように整備して欲しい。⑤

■排水対策

○要望・提案

- ・大雨の際には城山から水が溢れることがあったので排水対策が必要。①⑤
- ・町方は台風や大雨で浸水しやすい地区なので、**余裕を持った排水計画**が必要。②

■役場前の公園

○要望・提案

- ・役場前の交差点付近に**休める場所**を整備して欲しい。⑤

■区画道路

●懸念

- ・現計画の道路は、既存宅地を分断し、町並みを大きく変えてしまう。①
 - ・大槌らしき**道、水路を継承したまちづくり**を行わなければ、住民が減ってしまう。①
 - ・直線の道路網では、昔の面影がなくなるので少しさびしい気もする。②
- ### ○要望・提案
- ・町の**歴史や昔のまちなみ**を尊重して、従来の道路網に沿った計画とすべき。①
 - ・県道と旭通りの間に計画されている道路は多くの既存宅地を分断するので必要ない。②
 - ・旭通り以南の道路整備は必要だが、**県道から旭通りまでの歴史的な町割(区画)**は維持すべき。③
 - ・これまでは道路に接していない宅地もあったが、今後は**車で入りやすい宅地**にして欲しい。③
 - ・子どもや高齢者が**安全に歩行できる道**を作ることに繋がるのであれば、ゾーン30の導入には賛成。⑤
 - ・道路を盛り上げて速度抑制を図ると、車が通る際に音がしてうるさいので、**舗装の模様などで速度制限エリアを表現**する方が良い。⑤

■水路(修景用)

○要望・提案

- ・駅前通りや広場に**せせらぎ水路**があると良い。④
- ・地下水路ではなく、**水面が見える形で整備**して欲しい。④

■駅前通り、駅前広場

○要望・提案

- ・上町・本町の商店を守って欲しい。③
- ・駅周辺に**商店を集めて欲しい**。③
- ・町の**玄関**になるので、駅前通りや広場は整備して欲しい。④

■井戸、湧水、公園

▽震災前の状況

- ・湧水は旭通り以南にしかでなかった。住民で掘った井戸もあり、大切に利用していた。①
 - ・昔の湧水は、飲用水と生活用水として利用。外で遊んでいるときに喉が渴いたら、近くの湧水を飲んでいた。②⑦
- ### ○要望・提案
- ・**湧水を活かした公園**をつくりたい。③
 - ・子どもたちが**自由に遊べる公園**にして欲しい。
 - ・利用者が多かった「旭の井戸」は保全できない場合、**近くにできる公園に井戸を再生**して欲しい。③
 - ・旭通り沿いの公園は、敷地の一部を**すり鉢状にして湧水が自噴**するようにしてもらいたい。③⑤
 - ・防犯対策として、**周りから公園内を見守る**ことができるような工夫をして欲しい。③
 - ・公園は、**分散して配置**した方が住民にとっては使いやすい。③
 - ・自噴井戸のある公園や**災害公営住宅を繋いで散策路**をつくるという案については賛成。④
 - ・散策路(旭通り)を子供が通ることを考えれば、歩く部分をカラー舗装にするなどの**安全対策**が必要。④
 - ・公園ひとつひとつに**特徴を持たせ、公園巡りができる散歩道**をいくつか整備して欲しい。⑥
 - ・**散歩の経路・ポイントを掲示**したほうが良い。⑥
 - ・断水などの上水道のリスクを分散するためにも湧水の活用は必要。④
 - ・高齢者が休める憩いの場所にして欲しい。⑤
- ### ●懸念
- ・公園内に自噴井へアプローチするスロープを作ると面積が減るし、足の不自由な人には降りづらいのでは。④
 - ・みんなで井戸を管理するとなると、これまでの個人管理のようにきれいに管理できるか不安。⑤
 - ・植栽も含め、井戸を地域住民で管理することは難しいのでは。⑤

■歩行者専用道(路地)

○要望・提案

- ・近道や通路として**住民が利用していた路地**があったので整備して欲しい。④

■JR以南エリア

○要望・提案

- ・昔のように**自然再生**ができないか。②
- ・昔あった**干潟、砂浜を再生**して欲しい。③

町方地区(大町) まちづくりに関する住民意見

凡例

- ①: 第1回大町まちづくりワークショップ(2013/11/30)
- ②: 第5回末広町・大町合同まちづくりワークショップ(2014/01/29)
- ③: 第2回地区別ワーキング(2013/06/26)
- ④: 第4回地区別ワーキング(2013/10/17)
- ⑤: 第5回地区別ワーキング(2013/12/19)

■県道 大槌小槌線

▽震災前の状況

- ・昔は、お祭りの時に県道沿いに**露店**が並んでいた。①
- ・以前は電柱が建っていて道路が狭かった。①
- 要望・提案
 - ・**お祭りのために道路の幅は確保**してほしい。①
 - ・高齢化の進行に伴い、電動カートを使用する人が増えると思うので、**電動カートが通れる程度の歩道幅を確保**してほしい。①
 - ・鋭角に交わっているために事故が多い交差点があったので、**交差する道路はなるべく直角**にしてほしい。①
 - ・電線が落下する危険性もないし、断線もしないので、**電柱はない方がいい**。①
 - ・幅員は16mでいい。① ・車道、歩道ともに幅員が広すぎる。③
 - ・**街路樹を避難の目印**として設置するというのは、高齢者にとっても分かりやすく、災害発生時等は逃げやすくなるだろう。②

中央公民館

江岸寺

■七軒町

▽震災前の状況

- ・**昼間は通学路、夜間は飲み屋街**だった。①
- ・昔は家が7軒しかなかったから「七軒町」という地名になった。①
- 要望・提案
 - ・大槌の歴史の一つとして**残した方がよい**。①

■駅前通り、駅前広場

○要望・提案

- ・駅前通りや駅前広場に**飲食店**があるといい。**にぎわい**があって欲しい。①
- 懸念
 - ・駅前通りや駅前広場を整備しても、鉄道が復活しないと意味がない。①

■避難

▽震災前の状況

- ・昔は**路地があったので、いろんな所を通り抜け**できた。①
- ・年寄りが多いので、車でないと逃げられない。①
- 要望・提案
 - ・七軒町に隣接する街区に、**縦に県道に抜ける道路**が欲しい。①
 - ・車と人の逃げる**動線が重ならないように、避難路を整備**して欲しい。①

■御社地

▽震災前の状況

- ・御社地は自噴しないので、他の地点から水を引き入れていた。①
- ・以前は**もっと広がった**。①
- ・昔の御社地の**池の底面は土で、側面は板**で囲まれていた。①
- ・足を入れられる程度の水路があった。①
- ・御社地で鯉の世話をしていた。上水道を使っていたときは鯉の生育が良くなかったが、湧水に変えてからは改善された。①
- 要望・提案
 - ・御社地を整備する際には、是非**湧水を使用**してほしい。①
 - ・自噴しないのであれば、池を下げる必要性はない。①
 - ・御社地周辺を**憩いの場**として位置付けるのであれば、隣接する盛土区域との高低差は設けない方がいいと思う。**高低差があると高齢者が使いにくく、法面部分の清掃が大変**になる。①
 - ・**排水**を十分に検討してほしい。御社地に家庭用水が入り込まないようにしてほしい。①
 - ・池の周りにある程度**平場を確保**するのであれば、盛土する必要はない。①
 - ・**天神さま**を祀ってほしい。天神さまがなければ御社地を整備する意味がない。①

■コミュニティ

▽震災前の状況

- ・県道を境に、大槌小学校学区と大槌北小学校学区に分かれていた。①
- ・大町の県道以南では自治組織がなかった。①
- 要望・提案
 - ・今後は、住民のためにも、町のためにも**自治組織**をつくるよう促すべきである。①

■商業

▽震災前の状況

- ・バイパスができてから、町方の商店街の売り上げは減った。①
- ・以前は、浪板に海水浴に行く人が町方に寄って買い物をしていた。①
- ・公共施設、商店、飲食店等、御社地を中心に何でも揃っていた。①
- 要望・提案
 - ・マストや沢山に建設中のみずかみなど、**町内の商業施設との関係性**を踏まえて、**町方で商店街が成り立つような計画**を立てるべきである。①
 - ・図書館(MLA)ができれば、交流人口は増えるだろう。①
 - ・商店のみで固めてしまうと、いずれスカスカになってしまうことも懸念される。⑤

■水路

▽震災前の状況

- ・**大槌と小槌の境に水路**があった。御神輿が通る道だった。①
- ・阿部さん宅前の道路にも水路があった。鮭が上ってきた。①

■とっくり町

▽震災前の状況

- ・「**とっくり町**」と呼ばれた**広場(民地)**があった。①
- ・奥の鶴岡さん宅でたこ焼き(串に3つささっていた)、キンツバ、おでんなどを売っていた。①

■災害公営住宅(大町)

○要望・提案

- ・5階建ての災害公営住宅は、**圧迫感**があるし、**町並みとしてもあまり良くない**ので抵抗がある。②
- ・**早くたくさんの人に帰ってきて欲しい**ので、5階建てにしてたくさんの人が入ると良いと思う。②

■湧水、公園

▽震災前の状況

- ・自噴井はたくさんあった。満潮の時は高く上がっていた。①
- 要望・提案
 - ・公園の一部を**掘り込んで自噴井を残すのは良い**と思うが、子どもたちが**安全に水遊び**ができるように配慮して欲しい。①
 - ・まちの中に湧水が出ていなければ、「湧水の町」とは言えない。④

湧水があった箇所: ●

■JR以南エリア

▽震災前の状況

- ・**須賀町に明神通り**があった。①

0 25 50 100 S=1:2,500(A3)

平成 25 年度大槌デザイン会議成果 大槌デザインノート

沢山地区

【コンセプト】※デザイン会議 - 地区別 WG 等より

1. 地域のつながりを維持し、新たなコミュニティを育む土台をつくる
2. 安全に暮らせる地域をつくる
(避難計画／道路／沢山沢川／こどもの見守り／交流)
3. 大槌のこどもたちのふるさとの風景をつくる
 - ・季節感を感じられる道路デザインと環境整備
 - ・通学路と地域との接点となる小さい広場空間
4. 大槌の新しい玄関口としてのおもてなしの風景をつくる

【具体の整備内容】

- A. 骨格道路とその周辺整備（魅力ある地区の入口づくり）
- B. 防集団地内の集会所／公園等の整備
- C. 大ヶ口大橋と三陸縦貫道接続道路整備
- D. 沢山沢川改修および周辺整備
- E. 現道の改修／安全性・防犯性の向上対策

＜E. 現道の改修／安全性・防犯性の向上対策＞

・現道も通学路や生活道路として使われるため、骨格道路の道路デザインと統一感のある舗装に改修したり、防犯灯を設置したりといった安全性・防犯性の向上対策を順次行う。

- ・夜は暗くて危ないので、防犯灯をつけて欲しい(1,2,3)(A)
- ・地区内を安全に歩けるように歩道を整備して欲しい(A)
- ・通学路として利用される現道は拡幅して欲しい⑤

＜C. 大ヶ口大橋と三陸縦貫道接続道路整備＞

- ・大ヶ口大橋は、大槌の新しい玄関口としてふさわしい橋を目指す。
- ・通学児童が安全に通行できる橋・交差点整備を行う。

- ・通学路になるので安全な橋にして欲しい②
- ・大ヶ口大橋の沢山側の交差点は、三陸縦貫道のインターチェンジができれば、スピードを出す車が増えると思うので、安全な交差点になるように配慮して欲しい②
- ・大ヶ口大橋は大槌町の新たな玄関になるため、作り方を工夫してほしい②
- ・歩道は道路の下を通し、歩車分離してはどうか？(A)

■ 沢山・源水・大ヶ口地区 デザインノート

沢山地区の復興まちづくりデザイン方針

〈施設名〉

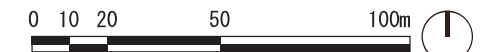
・復興まちづくりデザイン方針

・デザイン方針の根拠となる住民意見

(1)～(3)：第1～3回地域復興協議会

②,④,⑤：第2,4,5回地区別WG

(A)：拡大地区別WG



S=1:1,000 (A1)、1:2,000 (A3)

※源水地区、大ヶ口地区のデザインノートも今後作成予定

※公共施設の整備内容はイメージであり
今後の検討内容により変更の可能性有ります

＜A. 骨格道路とその周辺整備（魅力ある地区の入口づくり）＞

- ・地域の新しい中心であるとともに、大槌のこども達が9年間通う通学路となるため、魅力的な道路デザインに加え、こども達のふるさとの風景となる居場所づくりを行っていく。
- ・街灯の設置など安全に配慮しつつ、道路残地への植樹や環境整備などを積極的に行い、地域の顔、ゲートとなる道づくりを目指す。
- ・道路残地の広場整備は、地域への入口になるとともに、こども達と地域住民のふれあいの場となることを目指す。

- ・骨格道路沿いが居心地のよい場所になったらいい。骨格道路に桜並木を作るのはどうか②
- ・旧小学校のグラウンド沿いに桜並木があったので、骨格道路に桜並木を引き込めないか？④
- ・骨格道路沿線の道路残地を緑化すると地域のイメージが良くなるだろう④
- ・骨格道路の入口部の道路残地には、花壇をつくって、ゲートのな意味合いを持たせてはどうか？④
- ・春は桜が咲き、秋は栗が生るような季節を感じられる通学路にしたい(A)
- ・道路残地の緑化は、沿道住民の意見や維持管理の方法まで考えて計画する必要がある④⑤(A)
- ・夜間の安全面を考えると街灯を設置して欲しい(2,3)②

＜B. 防集団地内の集会所／公園等の整備＞

- ・元々の地域の中心の復興かつ、新しい住民の方々や学校へ通うこども達のふれあいの場となるような集会所、公園の整備を目指す。
- ・日常から使われることにより、災害時の一時避難所としての役割も持たせる。

○集会所の位置

- 夏本方面等からの避難所にもなる場所
- 地域の核として住民が使いやすい場所
- 学校に通うこども達も集まりやすい場所

○公園でやりたいこと

- キャッチボール
- グラウンドゴルフ
- 遊具遊び

○集会所の用途

- 地域行事／日常コミュニケーションの場
- 様々な活動の場 ⇒ 多目的に利用できる広い駐車場を併設
(お茶っこ、カラオケ大会、太極拳、剣道、こども会、いもの子会、健康診断など)

- ・地域のコミュニケーションの場として、集会所は必要④
- ・子供が集まれる図書館のような施設があるといい②
- ・住民（特に高齢者）が集まることのできるまちの“核”となるような集会所が欲しい②
- ・場所は奥まったところではなく、通りに面しているみどり幼稚園の跡地が良い②⑤(A)
- ・避難所にもなる集会所は住民が使いやすい場所に設置して欲しい④
- ・集会所の駐車場は、グラウンドゴルフや集会所で作った料理をふるまえるくらいの広さが欲しい。(A)
- ・今まで沢山地区には公園がなかったが、人口が増加するので公園は必要(A)
- ・遊具があって、キャッチボールやグラウンドゴルフなどができるくらいの広場が欲しい⑤(A)

＜D. 沢山沢川改修および周辺整備＞

- ・骨格道路整備とともに改修を行う沢山沢川は、土砂の堆積や豪雨などによる地区への浸水がない安全で衛生的な地域の河川として整備する。
- ・河川改修に伴う周辺の盛土も適宜実施していく。

- ・沢山沢川を骨格道路の下に付け替える計画のようだが、大雨の時に周辺が浸水しないか心配④
- ・道路下に水路が流れるようになると、土砂の堆積状況が見えなくなるで不安(A)
- ・水路に草が生えて、鯉もいると良い(A)

A. 骨格道路とその周辺整備

■骨格道路

- ・こども達のふるさとの風景となる心地よい街路（通学路）へ
⇒歩道や法面などに季節感を感じられる樹木を植樹など
環境整備を積極的に行う
- ⇒安全面・景観面に配慮した道路デザイン



シンプルな横断防止柵
景観に配慮した歩道舗装

■通学路と地域との接点（道路残地）

- ・地域住民とこども達のふれあいの場へ
⇒道路残地にベンチや植栽を適宜配置して交流の場を創出する



歩道と一体となった小広場



地域で手入れ可能な規模の花壇

C. 大ヶ口大橋と三陸縦貫道接続道路整備

■大ヶ口大橋、三陸縦貫道と大槌小国線の交差点

- ・新しい大槌の玄関口として、安全性に配慮しつつ魅力的な橋・交差点へ
⇒横断・転落防止柵や舗装パターン、路面表示などを工夫



大槌川を眺めやすい転落防止柵



「歩行者優先」を意識させる舗装

※源水地区、大ヶ口地区のデザインノートも今後作成予定
※公共施設の整備内容はイメージであり、
今後の検討内容により変更の可能性が有ります

■ 沢山・源水・大ヶ口地区 デザインノート

沢山地区の具体的な空間イメージ資料

B. 防集団地内の集会所／公園等の整備

■集会所

- ・自治会館に代わる地域の中心（核）としての地域行事、
日常コミュニケーションの場の復興
- ・避難所としての役割も担う新旧住民とこども達のふれあいの場へ
⇒集会所に広場や駐車場を併設し、イベント時などに一体的に利用
⇒以前の自治会館のように様々な人が集まり、多様な使い方ができるように、
広場や駐車場に開かれた集会所の建築形態（縁側の設置など）



駐車場兼広場



集会所

広場

縁側のある集会所

■公園

- ・住民とこども達が自由にかつ多目的に気軽に利用できるにぎわいのある公園へ
⇒道路と連続した空間（車止めや樹木等で緩やかに区切る）
⇒使いやすく色々な活動ができるように平坦でシンプルな設え
⇒隣接住宅のプライバシーや安全性に配慮しつつ、
周辺からよく見え、アクセスしやすい公園



道路境界（樹木を粗に配置）



多目的広場（芝生）

多目的広場（土）

宅地境界（樹木を密に配置）

E. 現道の改修／安全性・防犯性の向上対策

■現道

- ・主要な通学路や生活道路を安全性・防犯性の高い道路へ
⇒骨格道路と統一感のある舗装パターンへの改修や路面表示、防犯灯の設置など



舗装パターンを変えて
歩道のように見える



既存の電柱に装柱するタイプの防犯灯

0 10 20 50 100m
S=1:1,000(A1)、1:2,000(A3)

沢山・源水・大ケ口地区 まちづくりに関する住民意見

- 凡 例
- 防災集団移転先住宅地
 - 移転補償住宅地(案)
 - 災害公営住宅
 - 集会所候補地
 - 骨格道路の整備に伴う残地、法面

- ①: 第1回地域復興協議会(2013/11/10)
- ②: 第2回地域復興協議会(2013/12/14)
- ③: 第3回地域復興協議会(2014/01/25)
- ④: 第2回地区別ワーキング会議(2013/06/26)
- ⑤: 第4回地区別ワーキング会議(2013/10/17)
- ⑥: 第5回地区別ワーキング会議(2013/12/19)
- ⑦: 拡大地区別ワーキング会議(2013/11/30)

■大槌橋

●懸念

- ・幅員が5mしかなく、車のすれ違いができず、**非常時の避難が行き詰まる**ことが想定される。①

■大ケ口地区、大槌川

▼現在の状況

- ・多目的集会所ではフラダンスや料理など、**多くのサークル活動**が行われている。①
- ・朝晩は**川沿いを散歩**している人が多い。①

○要望・提案

- ・**河川敷に歩行者・自転車専用道**を整備すれば、安全に通行できる。⑦
- ・被災していない住宅地にも明るい**街灯**を設置して欲しい。⑦
- ・**川沿いに桜**を植えたい。⑥

■避難道

○要望・提案

- ・城山へ向かう林道が、中央公民館への唯一の道であるため、**維持管理**して欲しい。①
- ・津波避難に備えて、**三陸縦貫道に避難するための階段や広場**を設置してもらいたい。①②

■源水地区

▼現在の状況

- ・**自治会の活動が活発**で、新旧住民の交流も深まっている。⑤

■骨格道路

○要望・提案

- ・骨格道路沿いが**居心地のよい場所**になっただけいい。骨格道路に**桜並木**を作るのはどうか。④
- ・旧小学校のグラウンド沿いに桜並木があったので、骨格道路に桜並木を引き込めないか。⑤
- ・骨格道路沿線の**道路残地を緑化**すると地域のイメージが良くなるだろう。⑤
- ・骨格道路の**入口部の道路残地**には、**花壇をつくって、ゲート的な意味合い**を持たせてはどうか。⑤
- ・春は桜が咲き、秋は葉が生るような**季節が感じられる通学路**にしたい。⑦
- ・道路残地の緑化は、沿道住民の意見や**維持管理の方法まで考えて計画**する必要がある。⑤⑥⑦
- ・樹木を列植する必要はない。ところどころにあればよい。⑥
- ・夜間の安全面を考えると**街灯**を設置して欲しい。堤防沿いも含めて。②③④
- ・電線地中化をして欲しい。⑤

●懸念

- ・桜並木をつくると、沿道の住民から嫌がられるのでは。⑤
- ・骨格道路周辺の**環境整備が課題**。⑤

■沢山沢川

▼現在の状況

- ・普段は水が流れない川だが、雨が降ると**一気に増水**する。④
- ・増水後は**土砂が堆積**している。生活排水が混ざっていて汚い。④

●要望・提案

- ・水路に**草が生えて、鯉もいる**と良い。⑦

●懸念

- ・沢山沢川を骨格道路の下に付け替える計画のようだが、大雨の時に周辺が**浸水しないか心配**。⑤
- ・道路下に水路が流れるようになると、**土砂の堆積状況が見えなくなるで不安**。⑦

■大ケ口大橋

○要望・提案

- ・通学路になるので**安全な橋**にして欲しい。④
- ・大ケ口大橋の沢山側の交差点は、三陸縦貫道のインターチェンジができれば、スピードを出す車が増えると思うので、**安全な交差点**になるように配慮して欲しい。④
- ・大ケ口大橋は大槌町の**新たな玄関**になるため、作り方を工夫してほしい。④
- ・歩道は道路の下を通し、歩車分離してはどうか。⑦

●懸念

- ・子供たちが自転車専用道であるインターチェンジの方に入って行ったら危険。⑦

■環境保全

○要望・提案

- ・**湧水を利用した公園**を整備できないか。③

■大槌川

▽昔の状況

- ・昔は大槌川の川開きの時に、北小の前で**鮭のつかみ取り**をやったりして観光バスがよく来ていた。④
- ・地区で河川敷の**草刈り**をしたり、**鮭イベント**や**いもの子会**を開催したりしていた。⑦

■まちづくりの進め方

○要望・提案

- ・会議形式ではなく、**ざっくばらんに話ができる形式**でこれからの地域のことを話したい。⑤
- ・家が残った人・流された人でまちづくりに対する意見が違うので、**できるだけいろんな人から意見を聞くべき**。⑤
- ・地域づくりの**話し合いの場は、集約**して欲しい。① ・まちの変化について**常に最新の情報提供**をして欲しい。②
- ・多くの住民意見を全て満足させることは難しいと思うので、**住民意見がある程度踏まえた提案**を町がするべき。⑦
- ・**行政と町内会が一緒にまち歩き**をして課題を共有すると良い。⑦ ・計画を考えるには**長期的かつ広域的な視点**も必要。⑥
- ・**沢山ふれあいセンターをつくる会**の開催や**桜ラインプロジェクト**の検討をしていきたい。③

■小中一貫教育校

○要望・提案

- ・骨格道路沿いだけでなく、**学校の校庭などにも桜**を植えて、対岸から沢山地区を見た時に『桜の町』という印象を与えられるようになってほしい。④
- ・学校関係者以外の人が入れるゾーンを事前に考えておく必要がある。⑤

●懸念

- ・住宅地から学校建設予定地までの高低差は20m程度あるため、**避難所としては向いているが**、集会所の立地場所としては不向き。④⑤
- ・学校を住民に開放すれば、通学時などの防犯面でいいこともあるが、**住民以外の部外者が入った場合、逆に防犯面で問題**があるのでは。⑤

■避難階段

○要望・提案

- ・変電所周辺から骨格道路に上がる**避難階段**を設置して欲しい。⑦

■現道

○要望・提案

- ・変電所横を南北に通る現道は狭いので、学校や防集団地の**工事中の安全対策**が必要。⑤
- ・夜は暗くて危ないので、**防犯灯**をつけて欲しい。①②③⑦
- ・地区内を**安全に歩けるように歩道を整備**して欲しい。⑦
- ・**通学路**として利用される現道は**拡幅**して欲しい。⑥

■集会所

○要望・提案

- ・地域の**コミュニケーションの場**として、集会所は必要。⑤
- ・子供が集まる**図書館のような施設**があるといい。④
- ・住民(特に高齢者)が集まることができる**まちの“核”**となるような集会所が欲しい。④
- ・場所は**奥まったところではなく、通りに面しているみどり幼稚園の跡地**が良い。④⑥⑦
- ・**避難所にもなる集会所は住民が使いやすい場所**に設置して欲しい。⑤
- ・集会所の**駐車場は、十分な広さ**を確保して欲しい。⑦(グラウンドゴルフや集会所で作った料理をふるまえるくらい)

■防集団地内の公園

○要望・提案

- ・今まで沢山地区には公園がなかったが、**人口が増加するので公園は必要**。⑦
- ・**遊具**があって、**キャッチボールやグラウンドゴルフ**などができるくらいの**広場**が欲しい。⑥⑦
- ・夏場に休めるような**東屋、水飲み場**が欲しい。⑥
- ・**平らで使い勝手のよい場所**にして欲しい。⑥

■国道45号の海側エリア

○要望・提案

- ・国道45号線の海側に広大な土地やその周辺の田畑は、非住居系の施設が乱立しないよう、**休耕田等を集約した土地利用の検討**をして欲しい。④
- ・今後の土地利用については、農業関係者で話し合いが進んでいるため、**各種会議で情報共有**しながら、話を進めていくべき。⑦

■空き地や跡地の活用

○要望・提案

- ・みどり幼稚園跡地や元農地を**子どもの遊び場**や**仮設集会所の設置場所**として活用できないか。②③

■大槌北小学校跡地

●要望・提案

- ・住民の間では、**きらり商店街を残して**欲しいという人がいる。④
- ・北小の跡地に**図書館(メディアコモンズ)**を建てるのが良いのでは。①



平成 25 年度大槌デザイン会議成果
大槌デザインノート

小枕地区

海への眺望が豊かで、小さいけれどまとまりのあるまちをつくる

- 大槌随一の海への眺望が何よりの財産。
- 小さなまちなので、ご近所が仲良く暮らすための場所を大切に。
- 高台の集落にとって、町方や港へ繋がる道は生命線。

地域の人交流しやすい

街区づくりが明快で、
広場・集会所に集まりやすい骨格をつくる

集会所は、集まりやすい地区の真ん中に

隣近所であいさつしやすく、
海や広場へつながるコモンスペースを

非常時に必要な行動をとりやすい

目視警戒が重要

「海を見る・港を見る・町方を見る」

日常の公共空間は、
非常時に目視警戒できる場所に

港や低地部にいる**人の避難道、**
車で逃げ込める広場をつくる

海や町方からの眺めにも配慮する

周囲の美しい山並みに溶け込むように
法面は、なるべく小さく・目立たない形に

目視警戒できる範囲：
町方を見る

4. 法面とバッファー緑地

車で逃げ込める

5. コモン スペース

町方への眺望

3. 町方を 臨む広場 (仮称)

- ・道路照明の設置
- ・カーブミラーの設置

住みやすい環境である

町方へ行き来しやすい安心な道路

冬の北西風から地区を守る地形・防風林

大きな法面の圧迫感を弱める、
法面の緑化・道路脇のバッファー緑地

海への眺望を邪魔しない安全な防護柵の設置

1. 真ん中広場 (仮称)

5. コモン スペース

海への眺望

人の避難道

2. 海を見る公園 (仮称)

海への眺望

海への眺望が豊かである

地区の真ん中にある集会所から**海の眺め**が楽しめる

眺望一等地は、誰でも行ける**公共空間**に

港や低地部は、海の眺望を邪魔しない

どの家からも海が感じられる／家を一歩出ると海が見える

目視警戒できる範囲：
港を見る

目視警戒できる範囲：
海を見る

1. 真ん中広場（仮称）

日常的な地区内交流や自治会の拠点である集会所が併設された広場。
消防避難訓練・子供会・お茶っこ会などの運営を想定



(1)日常的に住民が集まりやすいよう、
**集会所と広場をセットで
地区の真ん中に配置する**

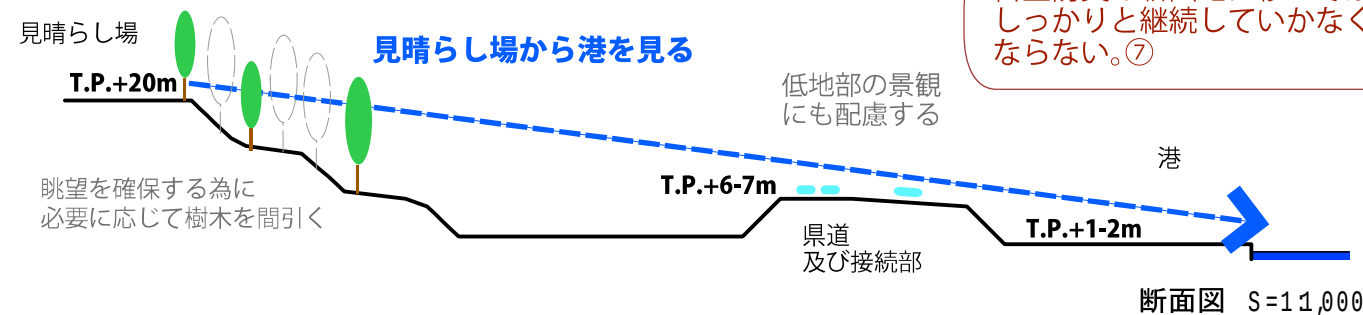
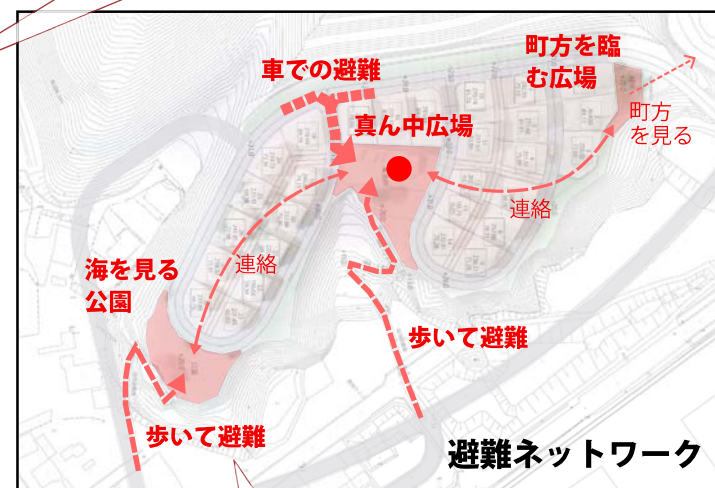
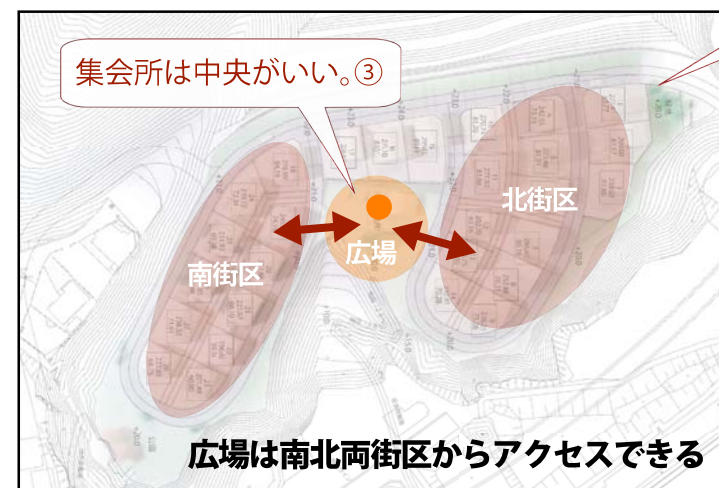
(2)有事には、
避難拠点とする
・非常時に人・車が逃げ込める
・港・低地部からの人の避難道とセット

(3)海の眺めを楽しめる
・見晴らし場から沖の様子や港の様子
を確認できる、

体を動かせる広い場所が欲しい。③

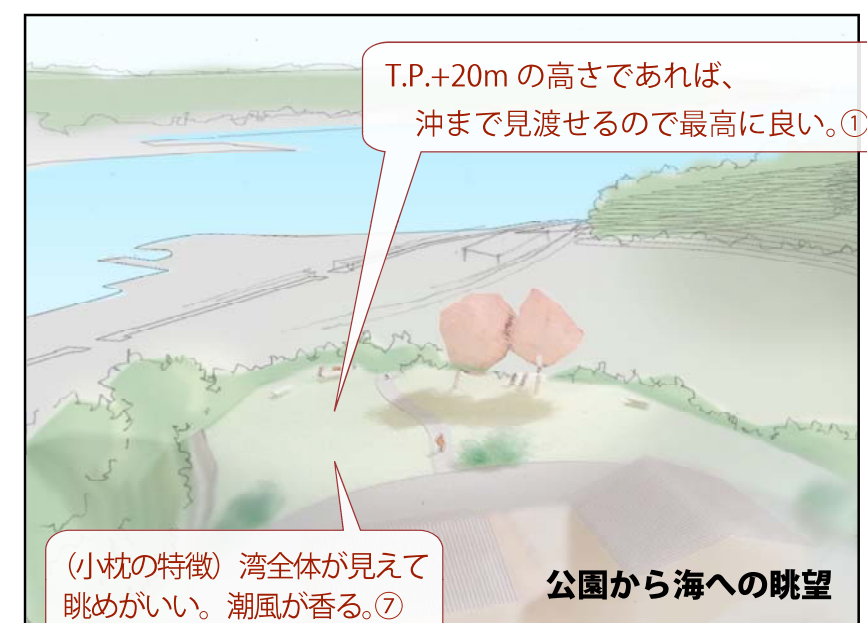
町内会を作り、消防・避難訓練や
子供会、お茶っこ会を運営したい。
自治会組織の在り方は一番の課題。⑦

今まで集会所は集落の端にあり、
端から端へ出向くのは大変だった。②



2. 海を見る公園（仮称）

海への眺望を最も豊かに得られる、地区南端に設ける公園
日常の運動などでの利用や屋外行事の運営を想定



(1)地区の立地を生かして、
眺望一等地を皆で利用する
・運動・屋外行事などができる、
海が見えるスペースを確保する

(2)海からの避難道とつながる

(3)コモンスペースとつながる

移転希望者の意見の出典（以降共通）

- ①H24.12.12 小枕・伸松地区意見交換会
- ②H25.03.15 小枕団地に関する意見交換会
- ③H25.06.26 デザイン会議 / 第2回地区別ワーキング会議
- ④H25.07.29 小枕団地に関する意見交換会
- ⑤H25.08.30 小枕・伸松地域復興まちづくり懇談会
- ⑥H25.10.17 デザイン会議 / 第3回地区別ワーキング会議
- ⑦H25.10.25 第1回小枕地区の将来を考える会
- ⑧H25.11.27 デザイン会議 / 第4回地区別ワーキング会議(拡大)
- ⑨H25.12.19 デザイン会議 / 第5回地区別ワーキング会議

3. 町方を臨む広場（仮称）

町方や他集落と海を見渡せる広場と防風林を整備する

(1)非常時に町方を眺められる

- ・非常時に町方を臨むことができる広場の配置（視点場）の確保。

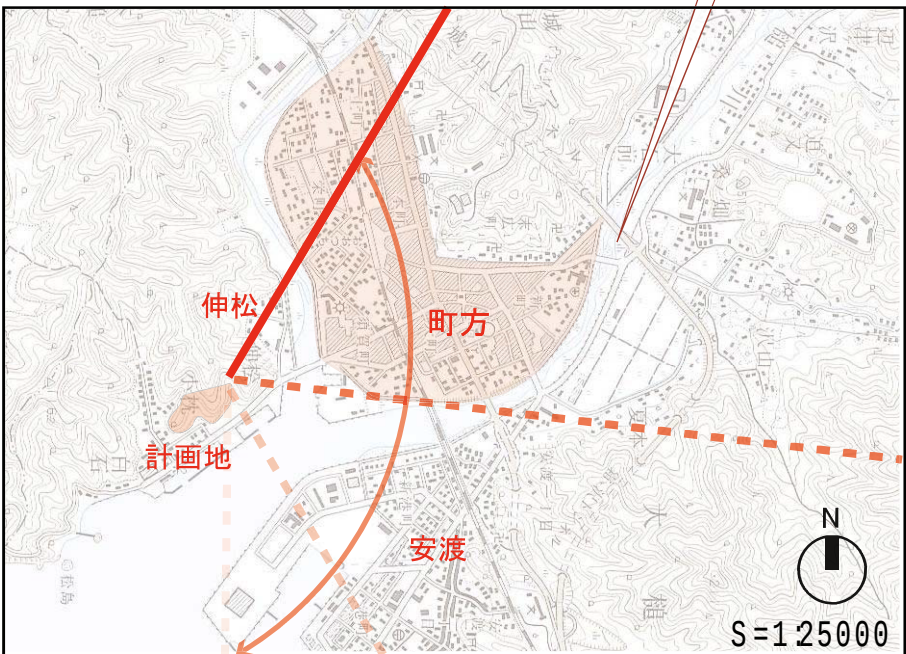
(2)冬の北西風を防ぐ林をつくる

- ・冬季における北西風から地区を守るように防風林をつくる。



広域平面図

町方から湾内まで見渡せる→災害時に大切



4. 法面とバッファー緑地

海や町方からの眺めにも配慮し、法面・擁壁の圧迫感を緩和し、住みやすい環境をつくる

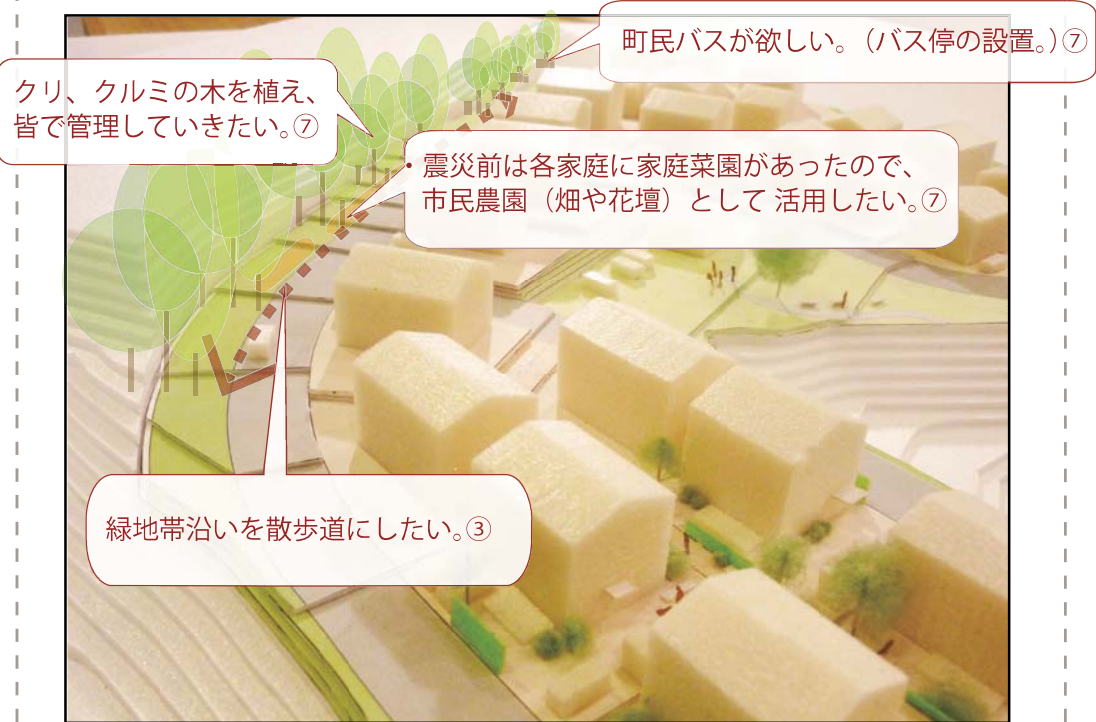
(1)海や町方からの眺めに配慮する

- ・できる限り小さく目立たない形状にする（ラウンディングなど）。
- ・緑で覆われるよう計らい、周囲の美しい山並みと調和するようにする。



(2)宅地の圧迫感を緩和する

- ・擁壁と道路の間に緑地帯を設ける。
- ・3mの擁壁の圧迫感を軽減するように植栽する。
- ・市民農園として畑をつくる。



5. コモンスペース

隣近所であいさつしやすく、海や広場へつながる裏庭空間

住戸間には、

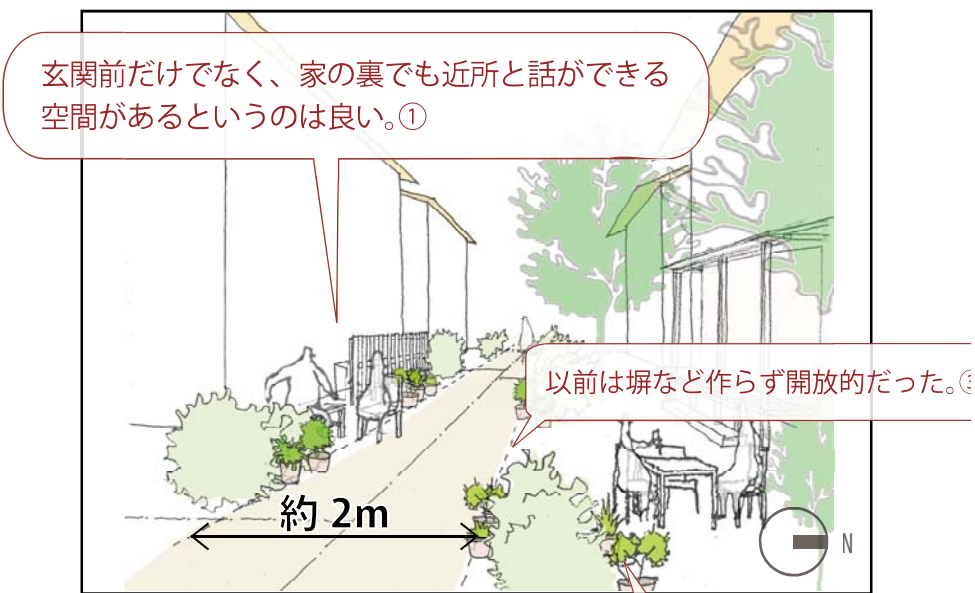
(1)コモンスペースを設ける 方向で継続検討する。

- ・各住戸の敷地境界から 1メートル以内の範囲で考えたい。さらに具体的な寸法、位置や方法はこれから話し合って決めてゆく。

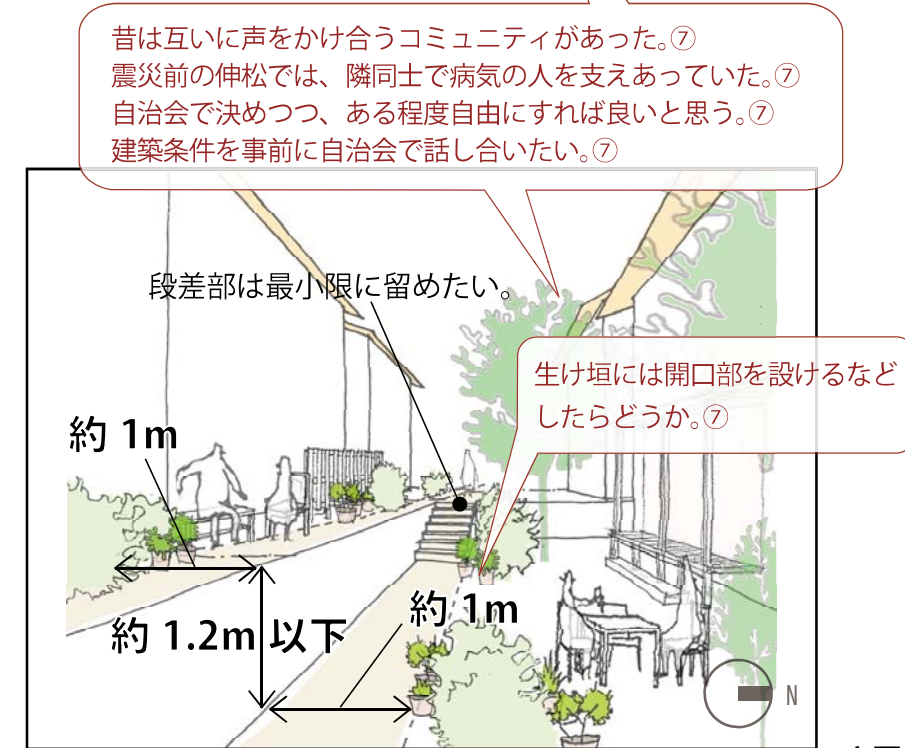
コモンスペースは、

(2)連続して歩いて通過できるようにしたい

- ・コモンスペース内・および住戸敷地境界はできるだけレベル差なく平らに造成したい。
- ・隣り合う家の住民同士の交流・海や集会所への近道などの利便性向上の為に設けるプライベートな路地空間。



段差がない状態が好ましい



段差は視線の通る約 1.2m 以下に抑えたい

補足資料 小枕団地・低地部についての移転希望者からの御意見

ワークショップの経緯

平成 25 年 11 月 27 日、大槌町役場にて
「小枕・伸松地区まちづくりワークショップ」を開催。
低地部の港の利用の仕方や、新団地との関係性について
新設される防潮堤および県道ができた場合を想定した議論を行った。

- ① 県案
 - ② 町案
 - ③ コーディネーター案
- の 3 案を提示。

以下に移転希望者の御意見を吹き出しで記入。

※移転希望者の意見の出典は全て、
⑧H.25.11.27 デザイン会議 / 第4回地区別ワーキング会議（拡大開催）



平成 25 年度大槌デザイン会議成果
大槌デザインノート

安渡地区

■ 安渡地区 デザインノート：まちづくりのコンセプト

安渡が大事にしてきたものを引き継ぐ

祭りや日常、子どもの遊び場とお年寄りの憩いの場、そして避難…

安渡ならではの暮らしや文化を絶やさないために、安渡の公共空間はいろいろな機能を併せ持つことが大切

● すりきず広場（裏参道広場）

子どもが思い切り遊べる場所 + 避難時に車を乗り捨てられる場所

● 新学校側の坂道

安渡地区で最重要の避難路 + 新しい公民館につながる地域の幹線道路

● 湧き水広場

安渡の自噴井を引き継ぐ広場

スポーツや散歩の途中で水を飲んだり、休憩したり、観戦したりできる場所

● 大仏様の尾根

安渡の高台から海を眺められる場所を作る

● 旧県道・緑地帯と街並み～昔の浜のライン～

安渡の誰もが使う道路なので、安渡で一番気持ちのよい桜並木の通りにする

[地区別WGでの住民の意見]

(2)～(6)：H25年度の地区別WG(第2～6回)での議論より

無印：H25年度の地区別WG以前の議論より

● 安渡地区のまちづくり

- ・人が集まる場所は安渡の財産とセットにする。
- ・海への眺望を大切に。海を見に行きたくなる街をつくる。(2)
- ・昔からある古いものを活かす。(2)
- ・御神輿の休憩のため広場スペースをネットワーク化して配置。(2)
- ・子どもが安心して学校まで通える歩道をつくる。(2)
- ・車で避難を想定したまちづくり。車の乗り捨てスペースを確保。(2)
- ・土地が狭い安渡だからこそ、“多機能”を公共スペースづくりのキーワードとする。(4)
- ・いままで安渡で大事にしてきたものを引き継ぎたいので、“歴史”もキーワードとなるであろう。(4)
- ・御神輿のおとまりのスペースを各所に設ける。お祭りの時だけでなく普段も使えることが重要。(4)
- ・ここまで津波がきたということを示す碑を各所にもうけてほしい。(4)
- ・安全な通学路をつくることはとても大事である。歩道が必要。(4)

まちの中心となる施設

● 複合公共施設とグラウンド

安渡の歴史・文化を伝えていく、居心地のよい地域の中心施設
震災前から続く安渡の行事（祭りや運動会など）ができる広いグラウンド

● 中段の広場（表参道広場）

神輿の起終点・伝統芸能を披露する場として
ふさわしい風格と参道らしさのある広場

● 古学校側の坂道とポケットパーク

避難の方向がわかりやすい道・ポケット
パークをつくる

新学校側の動線

古学校側の動線

ポケットパーク1

階段1

スロープ

ポケットパーク2

階段2

階段4

● 海につながる遊歩道

歩いて海まで行ける道がほしい

● 海を見る高台

安渡では数少ない、海を眺める大事なポイント

● 海に最も近い広場

海づくり公園でやっていたようなイベントをここで
芝生の観客席に囲まれたイベント広場



■ 安渡地区 デザインノート：旧県道・緑地帯と街並み～昔の浜のライン～



旧県道・緑地帯と街並み～昔の浜のライン～

- ・旧県道と両端の広場が組み合わさって、安渡のまちの軸となる
- ・子ども達の通学路として、安全な歩道と桜並木を
- ・並木の中を気持ちよく散歩やジョギングができるように
- ・住民で管理をやるので、美しく使い勝手のよい並木道を
- ・災害時には車の乗り捨てが出来るようにガードレールは設置しない
- ・沿道の災害公営住宅はしっかりデザインして、漁師町である安渡らしさのある街並みをつくる
- ・災害公営住宅は、なるべく低層戸建てで（集合住宅を建てる場合は、端っこがよい）

[地区別WGでの住民の意見]

(2)～(6)：H25年度の地区別WG(第2～6回)での議論より
無印：H25年度の地区別WG以前の議論より

● 旧県道と緑地帯

- ・地域の大事な生活動線。立ち止まっておしゃべりできる道。
- ・家族やペットとの散歩をしなくなる空間。
- ・子供達が通学に使いやすい道、また、記憶に残る道。
- ・昔の浜のラインがそれとなく取り込まれたデザイン。
- ・安渡の玄関口にふさわしい、生活感がにじみ出すまち並み。
- ・通学路となる昔からある大事な道なので、印象的な桜並木とする。(3)
- ・散歩やウォーキングの際にちょっと休める場所をつくる。(3)
- ・災害公営住宅が旧県道沿いに並ぶ計画であるので、積極的に美しい家並みをつくってほしい。(3)
- ・“日常に使いやすい道路”にふさわしい景観をつくるべきである。(4)
- ・生活エリアと産業エリアの境界部にあり、安渡の日常、生活を支える道路である。県道は産業のための道路、旧県道は生活のための道路。(4)
- ・参考にしたいのは、遠野の桜並木のようなイメージである。(4)
- ・並木の中を自転車で気持ちよく走れると良い。(4)
- ・旧県道と沿道の災害公営を一体的にデザインすることで統一感のあるまとまった街並みをつくってほしい。(4)
- ・沿道の災害公営については、味気のないビルになるのをなるべく避けて、整った街並みに寄与するものにしてほしい。(4)
- ・高齢者に配慮し、段差や勾配を極力小さくすることが重要である。(4)
- ・緊急時の車両乗り捨て等のため、ボラードやガードレールは無くてもよい。(4)
- ・橋供養塔を煙山商店の交差点近くの緑地などに再建してほしい。(4)
- ・旧県道と両端の広場がくみ合わさって安渡のまちの軸となる。(5)
- ・緑地帯の幅については現在の案でよい。(5)
- ・産業エリアとの境については土手のようなイメージであった。(5)
- ・桜を2列にし桜のトンネルとするのは、面積がもったいない。(5)

- ・散歩だけでなくジョギングもできるとよい。足に優しい道がよい。(5)
- ・園路の部分は土系の舗装がよい。砂利とすると転んだ場合に痛い。(5)
- ・園路についてはウッドチップのような舗装もあるのではないかな。(5)
- ・犬の散歩などのため、土の上を歩けるようなところがあるとよい。(5)
- ・植栽帯側の舗装部分については、舗装部分を広くすると自転車と歩行者がぶつかりそうになるようなことが増えるかもしれない。(5)
- ・緑地を減らし舗装を広くしようとすると、開けたスペースが広くなりすぎるかもしれない。(5)
- ・舗装面が広い方が管理などが簡単ではないか。(5)
- ・管理は住民がやるしかない。住民が求めた桜並木である。(5)
- ・緑地を多くとる案については草刈りなどの手間がかかるが、安渡の住民の意識が高いことにかけてみよう。(5)
- ・管理の手間がかかることが逆にコミュニティの活動のきっかけとなる。(5)
- ・安渡の印象的な樹木は桜である。シラカバがきれいな箇所もあった。(5)
- ・桜は舗装を痛めることがあるので、緑地部分に植えるのがよい。(5)
- ・地域住民の健康を増進するような散歩道となるとよい。(5)
- ・桜の木のオーナー制度などをつくり管理してもらえないだろうか。(5)
- ・道路のネーミングが大切である。ちなみに、このあたりは『須賀』という呼び名であった。(5)
- ・交差点部の形状を膨らませて車の乗り捨てができるようにしてあるのはよい。(5)
- ・桜並木の下を人が通れるように、宅地側に桜を配置してほしい。そのほうが宅地側から花を眺めやすくなる。(6)
- ・舗装よりも緑地を広くする方が、トータルで考えれば良さそうである。(6)
- ・緑地を広くする方が舗装の汚れなども気にならない。(6)
- ・犬の散歩には、緑地を広くする方がよい。(6)
- ・背の高い樹木を産業エリア側に配置し背景として使うほうが良い。(6)

- ・草取りが大変となるため管理が気になるが、管理は地元で頑張る、という風にできればよい。地域で相談していきたい。(6)
- ・緑地帯と産業エリアとの高低差の処理については、緊急時に駆け上がることができるように、なるべく土手状の法面で処理する。高低差があまりにも大きいところは擁壁も組み合わせれば良い。(6)

● 災害公営住宅

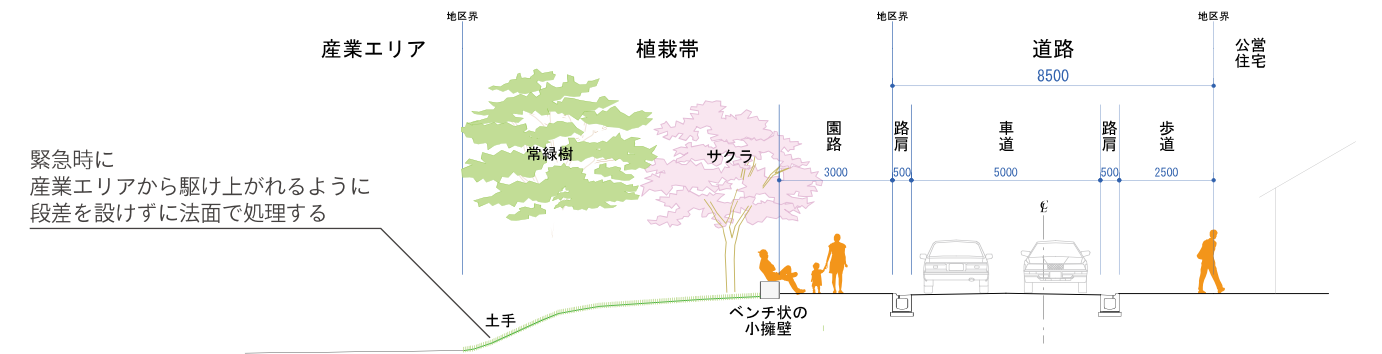
- ・災害公営住宅が旧県道沿いに並ぶ計画であるので、積極的に美しい家並みをつくってほしい。(3)
- ・旧県道と沿道の災害公営を一体的にデザインすることで統一感のあるまとまった街並みをつくってほしい。(4)
- ・沿道の災害公営については、味気のないビルになるのをなるべく避けて、整った街並みに寄与するものにしてほしい。(4)
- ・二波神社の真下は旧県道の中心になるため3～4階の集合住宅を配置するのはもったいない。(5)
- ・旧県道沿いの中心の部分は戸建てによる街並みが形成できるとよい。(5)
- ・2F建てのアパートであればすんだことがある人もいるので、集合住宅よりも長屋の形式とした方が入る人がいるのではないかな。(5)
- ・高い建物は入居したがる人が少ない可能性がある。吉里吉里の前例がある。(5)
- ・3～4階の建物を建てたところで津波の心配は消えないだろう。(5)
- ・安渡小跡地の公民館への災害公営の追加の要望を受けて、かわりに旧県道沿いに3～4階の集合住宅を配置できるとよい。(5)
- ・3～4階でも入りたい人もいるであろう。集合住宅を配置する場合は旧県道の西か東の端っこの方を候補地とするとよい。(5)

■ 安渡地区デザインノート：旧県道・緑地帯と街並みのイメージ

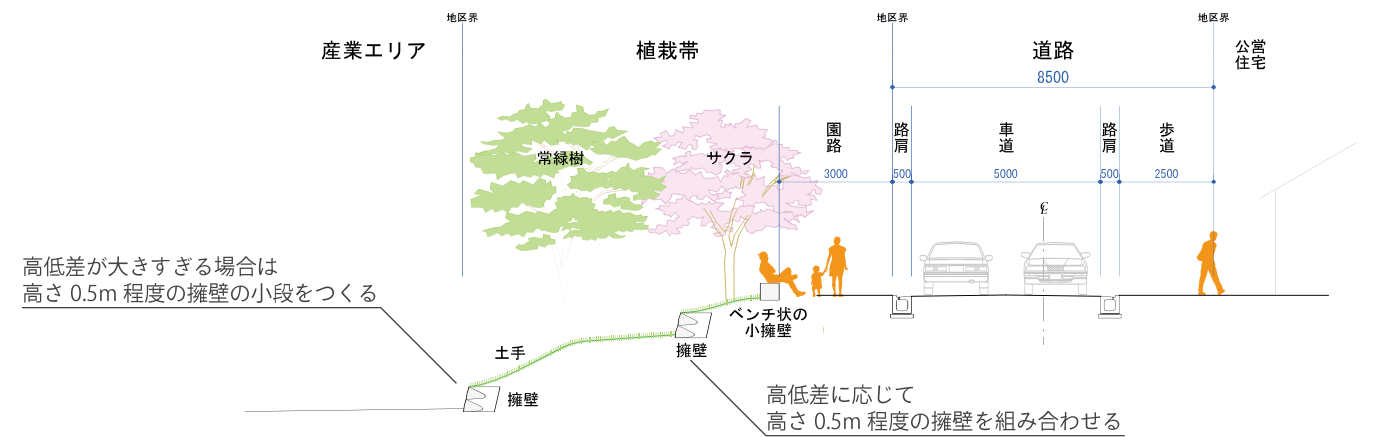
○ 平面図



○ 断面図 1/200：一般的な区間



○ 断面図 1/200：道路と産業エリアの高低差が大きい場合



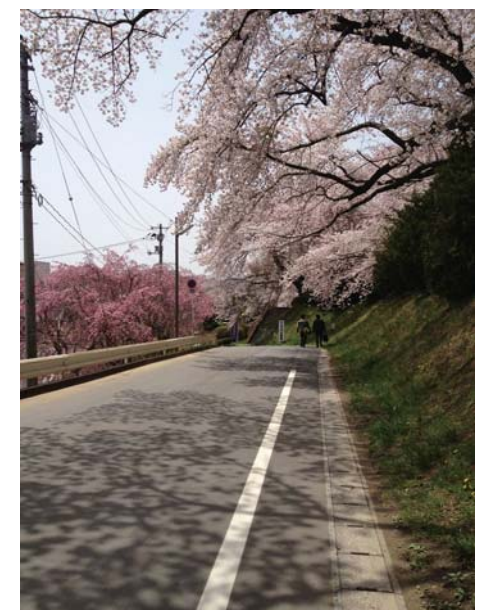
○ イメージスケッチ



○ 事例写真



桜並木の土手の事例：桧木内川の桜堤(出典：www.shikiclub.co.jp)



桜並木と法面の事例：気仙沼市

■ 安渡地区 デザインノート：海に最も近い広場、海につながる遊歩道、海を見る高台

海に最も近い広場

- ・芝生の斜面の観客席に囲まれたイベント広場に
- ・花火やロックフェスなど、今までは海づくり公園でやっていたような大型イベントの会場に
- ・駐車スペースは多めに確保

海につながる遊歩道

- ・海とのつながりが切れてしまわないように、旧県道からそのまま海へと続く動線をつくる

海を見る高台

- ・遊歩道を乗り越えたら、海へのパノラマビューが開け、そこで海を眺められることがとても重要

[地区別WGでの住民の意見]

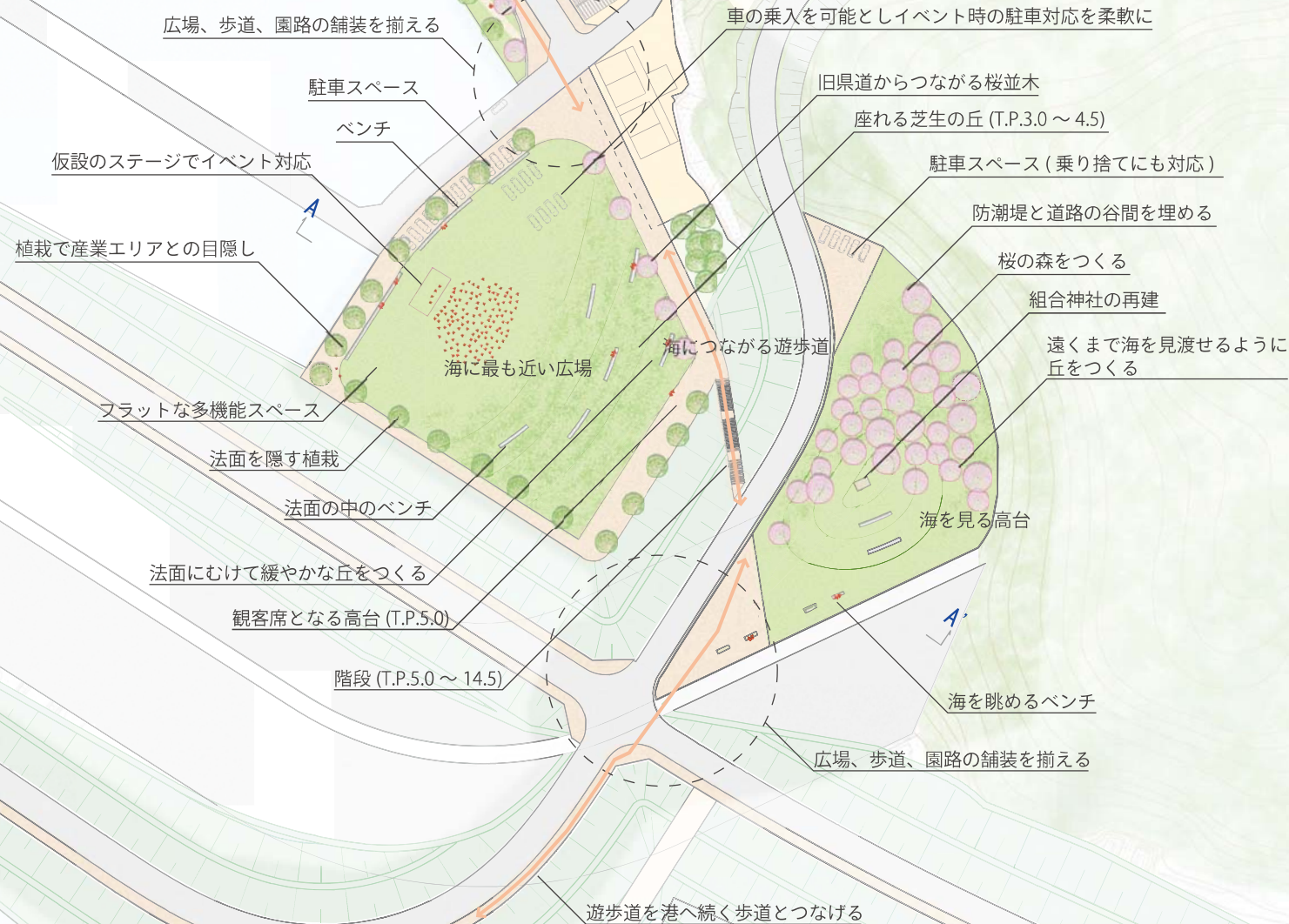
(2)~(6):H25年度の地区別WG(第2~6回)での議論より
無印:H25年度の地区別WG以前の議論より

● 海に最も近い広場

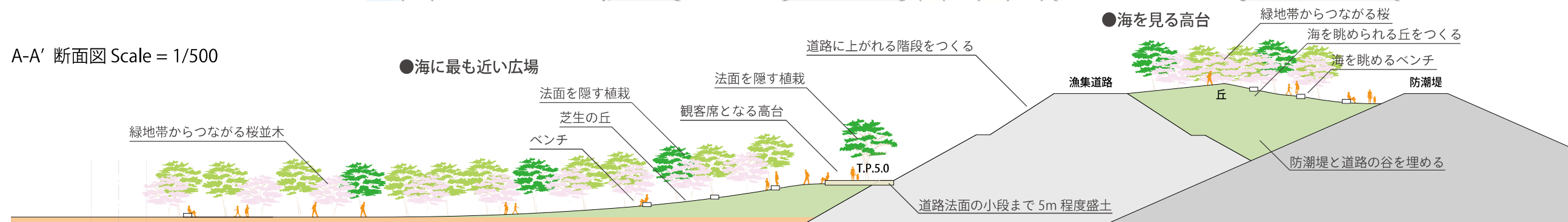
- ・晴れた日でも気持ちよく過ごせる緑陰をつくる。
- ・イベントに使える屋外ステージをつくる。(2)
- ・法面を有効に活用した座れる緑地をつくり(2)
- ・斜面が観客席になるような、地形を生かした構成とする。(3)
- ・お祭りやイベントに使える広場にしたい。花火やロックフェスをやりたい。(3)
- ・防潮堤の堤外側の窪地を埋めなければ、14.5mの防潮堤に囲まれる安渡には海を眺められるスペースがなくなってしまう。地震時に津波の様子を確認できなくなってしまうため、この窪地を埋め立てることは必要不可欠である。(4)
- ・組合神社がこの敷地のあたりにあった。公園の一角に再建してほしい。(4)
- ・基本的には現在の案のようなイメージでよい。(5)
- ・以前に港にあった広場の半分程の広さがあれば十分であろう。(5)
- ・フラットな部分を設けることで、多様な利用が可能となるのでよい。盛土を大きくするよりも使える面積が広い方がよい。(5)
- ・工場などとの目隠しのため、産業エリア側にも植栽をするとよい。(5)
- ・イベント時などを考慮して、駐車スペースは必要である。(5)
- ・駐車スペースが必要である。イベント時などについては近隣の産業エリアの駐車スペースを借りられるようにできればよい。(6)
- ・広場内に車を入れられるようにしておいて、イベント等に応じて駐車スペースをつくれるようにすると良い。(6)
- ・平らな面積を大きくするのが良いか、斜面を大きくするのが良いか、もう少し議論できれば良い。(6)

● 海を眺める高台

- ・防潮堤と漁集道路の間の谷を埋め立てて、海を眺める場所をつくることは安渡のまちづくりにとって重要である。(5)
- ・埋め立てが実現できるように、なんとか調整を行ってほしい。(5)
- ・組合神社があった場所に近いので、この高台に組合神社の再建ができるとよい。お祭りのときのお旅所になるが、階段があっても何とかなるだろう。(5)



A-A' 断面図 Scale = 1/500



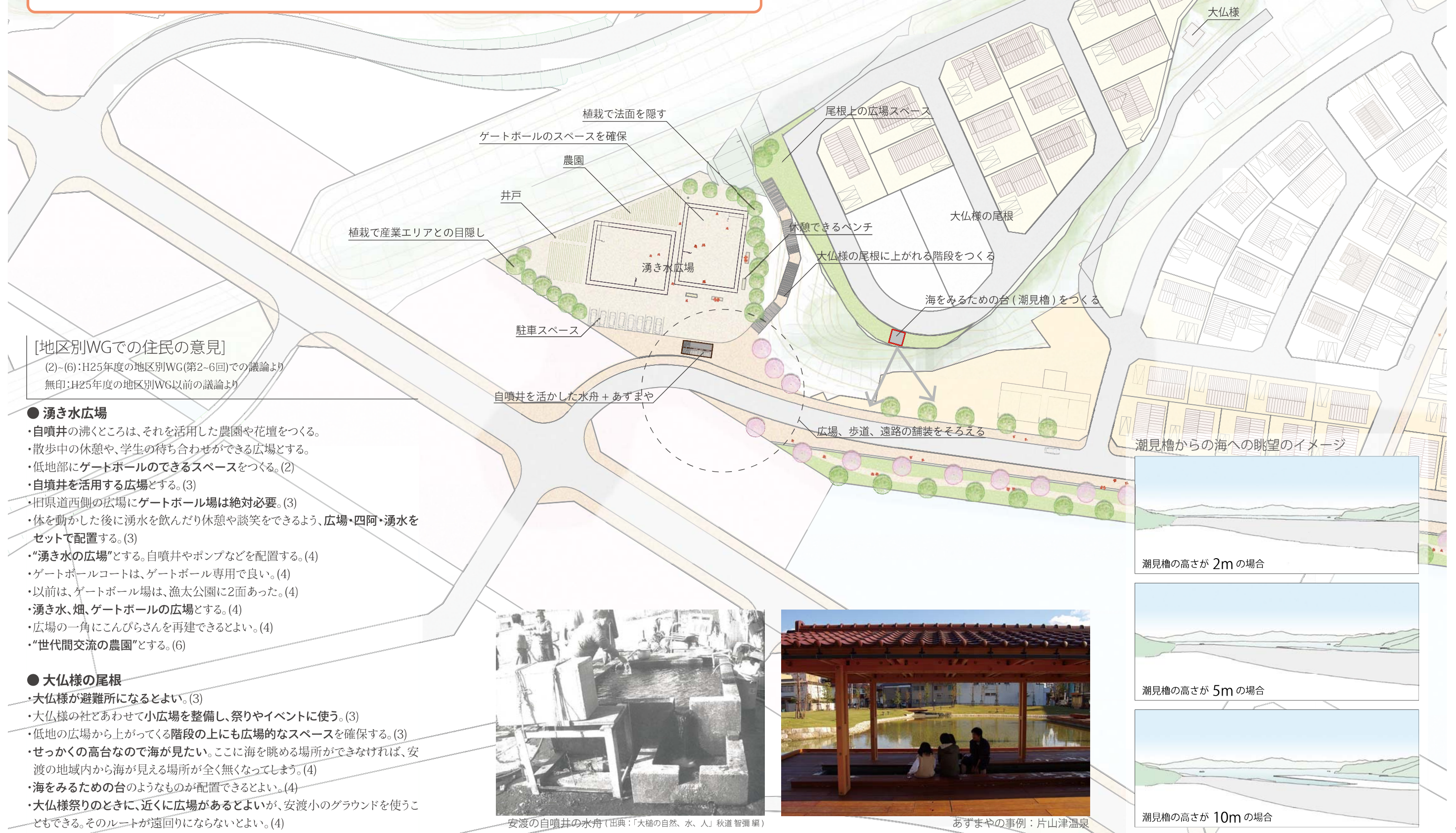
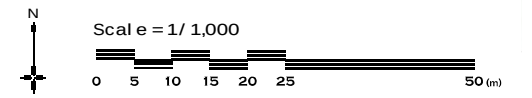
■ 安渡地区 デザインノート：湧き水広場、大仏様の尾根

湧き水広場

- ・安渡で数少ない自噴井が出そうな場所であるので、それを活かす
- ・お年寄りのためのゲートボール場を用意するとしたらここしかない
- ・スポーツや散歩の途中で水を飲んだり、休憩したり、観戦したりできる場所にするために、小さな「あずまや」を置く

大仏様の尾根

- ・ここから海を眺めたい！でないと、安渡の高台から海が見える場所がまったく無くなる！



[地区別WGでの住民の意見]

(2)~(6): H25年度の地区別WG(第2~6回)での議論より
無印: H25年度の地区別WG以前の議論より

● 湧き水広場

- ・自噴井の湧くところは、それを活用した農園や花壇をつくる。
- ・散歩中の休憩や、学生の待ち合わせができる広場とする。
- ・低地部にゲートボールのできるスペースをつくる。(2)
- ・自噴井を活用する広場とする。(3)
- ・旧県道西側の広場にゲートボール場は絶対必要。(3)
- ・体を動かした後に湧水を飲んだり休憩や談笑をできるよう、広場・四阿・湧水をセットで配置する。(3)
- ・“湧き水の広場”とする。自噴井やポンプなどを配置する。(4)
- ・ゲートボールコートは、ゲートボール専用で良い。(4)
- ・以前は、ゲートボール場は、漁太公園に2面あった。(4)
- ・湧き水、畑、ゲートボールの広場とする。(4)
- ・広場の一角にこんぴらさんを再建できるとよい。(4)
- ・“世代間交流の農園”とする。(6)

● 大仏様の尾根

- ・大仏様が避難所になるとよい。(3)
- ・大仏様の社とあわせて小広場を整備し、祭りやイベントに使う。(3)
- ・低地の広場から上がってくる階段の上にも広場的なスペースを確保する。(3)
- ・せっかくの高台なので海が見たい。ここに海を眺める場所ができなければ、安渡の地域内から海が見える場所が全く無くなってしまう。(4)
- ・海をみるための台のようなものが配置できるとよい。(4)
- ・大仏様祭りのときに、近くに広場があるとよいが、安渡小のグラウンドを使うこともできる。そのルートが遠回りにならないとよい。(4)



安渡の自噴井の水舟(出典:「大樋の自然、水、人」秋道智彌 編)



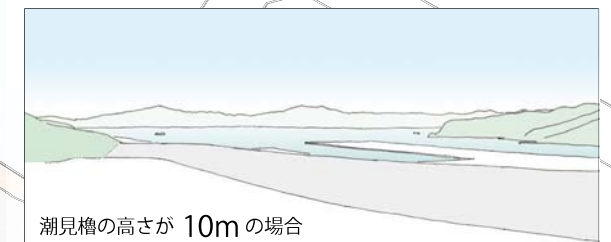
あずまやの事例：片山津温泉



潮見櫓の高さが 2m の場合



潮見櫓の高さが 5m の場合



潮見櫓の高さが 10m の場合

■ 安渡地区 デザインノート：新学校側の坂道、すりきず広場（裏参道広場）、複合公共施設とグラウンド

複合公共施設とグラウンド

- ・老若男女とわずみんなが気軽に集れる居心地のよい場所にする
- ・そうすれば、自然と大人が子どもを見守ることができ、安渡の歴史・文化や災害の教訓を伝えて行くきっかけになる
- ・震災前から続く安渡の行事（祭りや運動会など）が出来る広いグラウンド
- ・安渡地区の避難先の中核として、子どもの遊び場として使えるようにする

すりきず広場（裏参道広場）

- ・かけっこ、せせらぎの生き物観察、遊具あそびなど、子どもが思う存分遊べる場所にしたい
- ・二渡神社や旧安渡小に避難する際に、ここに車を乗り捨てられるようにすることが重要

新学校側の坂道

- ・安渡地区で最も重要な避難路なので、車の乗り捨てが出来るようにする（歩道と車道に段差や障害物をつくらない）
- ・二渡神社や旧安渡小への避難がスムーズにできるように、折れ曲がり部ですりきず広場と接する事が大切
- ・歩道は東側にし、旧県道・すりきず広場・旧安渡小を歩いて行き来しやすくする
- ・夜間にここが避難道であると分かるような仕掛けをつくってほしい

[地区別WGでの住民の意見]

(2)～(6)：H25年度の地区別WG(第2～6回)での議論より
無印：H25年度の地区別WG以前の議論より

● 複合公共施設とグラウンド

- ・ふだんから気軽に集まれる居心地のよい場所。
- ・老若男女みんなが使う風景。
- ・お祭りや地域のイベントに柔軟に対応。
- ・安渡小の桜を残す。
- ・地域の歴史や文化を学べる場所とし、落ち着いたデザインとする。

● すりきず広場(裏参道広場)

- ・二渡神社の裏参道につながる場所性を踏まえたデザイン。
- ・普段は散歩中の休憩スポットや子供達の遊び場に使えるようにする。
- ・子供達には、自分たちが昔体験したように、ありのままの自然を感じながら遊べる環境をつくってあげたい。そのために、広場にせせらぎや池などをつくる。(3)
- ・子供達が遊びまわる「擦り傷広場」と呼べるような広場にしたい。(3)
- ・かけっこができるように広場があるとよい。(3)
- ・仮の広場に置いてある遊具を再設置したい。(3)
- ・遊具メインの広場とはせず、遊具もあるという程度でよい。(3)
- ・排水機能とは別の遊水機能があるとよい。(3)
- ・JRトンネルわきの湧水から水を引くとよい。(3)
- ・メインの通りに面し、避難時に車で逃込めるできる広場とする。(3)
- ・子供が遊べる広場とすることが重要である。(4)
- ・第4回WGの素案は、議論に沿ったイメージ通りの案となっている。(4)
- ・二渡神社へ上る道路と法面処理の整備をしてほしい。(4)
- ・安渡の“子どもの中心地”としたい。子どもたちの普段の活動に使えるようにしたい。(6)
- ・遊具の再設置などを考えた上で、子どもが遊び回れたり車の乗り捨てでもできるように、なるべく面積を確保してほしい。第6回WGの素案では狭い(6)
- ・水系については、子どもが遊んでも危険が少ないように、小さい水路、浅い池でよい。(6)

● 新学校側の坂道

- ・おしゃべりをしながらゆったり歩ける道。
- ・非常時は避難経路となる。
- ・旧県道との交差点は安渡地域の「真の顔」として大切に整備する。(3)
- ・大樋の誇りである水を活用したまちづくり。(3)
- ・道沿いのせせらぎが欲しい。坂道で水を利用できるとよい。(3)
- ・ここまで津波がきた、という碑をつくる。(4)
- ・二渡神社へ逃げ込みやすいような避難経路を形成するために折れ曲がり部に公園を配置する必要がある。車の乗り捨てが可能につくりとすることもきわめて重要である。(4)
- ・裏参道の広場と連携しやすいように、歩道は東側に設けるべきである。(4)
- ・歩道は東側に設置する方がよい。(5)
- ・車は左、人は右、というイメージがある。避難などの状況を考え、安渡小跡に向かって登る場合を考えて、歩道は右側（東側）につけるとよい。(5)
- ・避難道となるため、夜間の照明が必要である。(5)
- ・車の乗り捨てなどが可能となるように、歩車分離をはっきりとしないほうがよい。ボラードや境界ブロックや段差などを設けず2 cm程度の高低差がある程度とするとよい。現在の役場前の道路のようなイメージである。(5)
- ・避難方向を指示するようなサインを交差点などに設置してほしい。暗いときや初めての方でもわかることが重要。(5)
- ・旧県道との合流部は以前から土砂が出てくるがあったため適切な対策をしてほしい。煙山商店のところに堰堤があった。(5)



■ 安渡地区 デザインノート：表参道広場、古学校側の坂道とポケットパーク

表参道広場

- ・神輿や伝統芸能がやりやすいように障害物や段差を少なく
- ・昔の参道なので、風格と参道らしさのあるデザイン
- ・祭りの時は通行止めにして道路も使って盛り上がるので、旧県道の交差点部とつながりのあるデザインとする
- ・普段は散歩の休憩ポイントとして、子ども達の遊び場として使えるようにする

古学校側の坂道とポケットパーク

- ・避難路であることがわかるような道路デザインにする
- ・ポケットパークでは、避難の方向や、ここまで津波が来た事を知らせる仕掛けが必要
- ・普段は散歩の休憩ポイントとして使えるようにする



イメージ歩道事例写真：防府市



イメージ歩道事例写真宇治市

【地区別WGでの住民の意見】

(2)～(6)：H25年度の地区別WG(第2～6回)での議論より
無印：H25年度の地区別WG以前の議論より

● 表参道広場

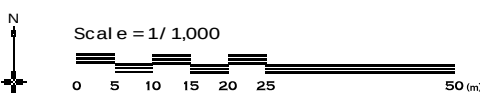
- ・二渡神社の表参道につながる場所性を踏まえたデザイン。御神輿のルートなど。
- ・普段は散歩中の休憩スポットや子供達の遊び場に使えるようにする。
- ・お祭りのメイン会場になる。(4)
- ・以前のようにお祭りのときには出店が並ぶような交差点にしたい。(4)
- ・お祭りのときは通行止めにして、交差点を広く使って盛り上がればよい。交差点部の舗装を広めにするのはよい。(4)
- ・狭くても皆で集まってお祭などに使うことができれば良い。お祭りのときは交差点も含めて一体的に使うことができる。(6)
- ・お祭りでは、伝統芸能の舞などを行い、100～200人集まる。露店も出る。(6)
- ・交差点が広く使えるのであれば、広場側の面積を絞って、かわりにすきず広場の面積を確保したい。(6)

● 古学校側の坂道

- ・二又部分は避難方向が明確なデザインとする。
- ・イメージ歩道とするとよい。(5)
- ・避難方向を指示するようなサインを交差点などに設置してほしい。暗いときや初めての方でもわかることが重要。(5)

● 古学校のポケットパーク

- ・現在の案のように、古学校の坂道のY字交差点の位置に小さいスペースがあるとよい。(5)
- ・津波がここまで来た、というサインを設置する必要がある。避難方向の誘導の矢印だけではメッセージが弱い。(5)
- ・散歩のときの中間の休憩スペースなどになるであろう。(5)



Y字交差点部に少広場をつくる

古学校のポケットパーク

古学校側の坂道

神社への参道と避難動線を兼ねる

参道の形状を残す園路

井戸

ベンチ

表参道広場

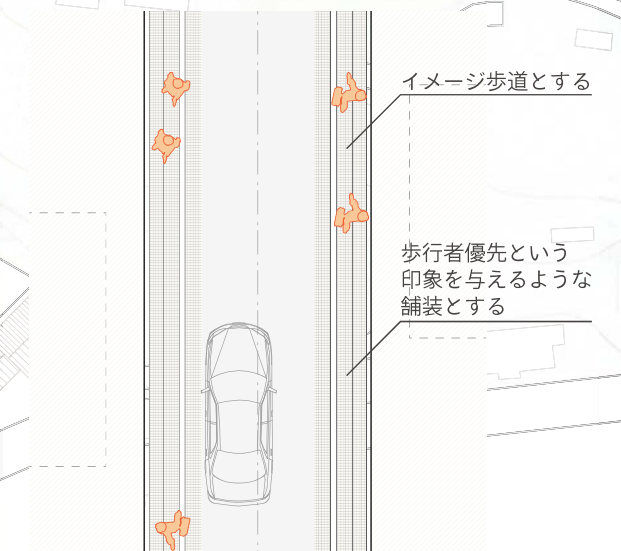
お祭りのときは一体的に使う

交差点、広場の舗装を揃える

古学校の坂道
断面図 1/200



平面図 1/200



イメージ歩道とする

歩行者優先という印象を与えるような舗装とする

■ 安渡地区 デザインノート：そのほかの大切な場所

港へ入る階段とポケットパーク

- ・階段の上り下りが大変なので、ポケットパークで休憩できるようにする
- ・西側のポケットパークは、自噴井が出ていた場所なので、湧水を活かした水飲み場をつくる

港へ入る道路

- ・港や海を眺めながら歩けるように歩道を海側に設置する
- ・ガードレール類は、眺望に配慮してなるべく透過性の高いものにする

県道

- ・ハナミズキなど、震災前の植栽を復活させてほしい

高台の広場

- ・港への眺望を確保する
- ・ご近所で井戸端会議が出来る場所にする

鎮魂の森

- ・できるだけ産業のための用地に使って、働く場所を増やしてほしい
- ・防潮堤の圧迫感を減らすための植栽は最低限あればよい



[地区別WGでの住民の意見]

(2)~(6)：H25年度の地区別WG(第2~6回)での議論より
無印：H25年度の地区別WG以前の議論より

● 港へ入る階段、スロープ

- ・散歩中に港へ行ったり、防潮堤の上から海を眺めに行きやすくなる。
- ・遠くからも見えるので煩雑な形状にならないようにする。
- ・海や山を眺めながら休憩ができるよう踊り場を設ける。(2)
- ・防潮堤の頂上部に四阿をつくることは不可能か。防潮堤は14.5mと高いため、登ったあとに日陰で休める必要がある。(4)
- ・階段の昇り降りが大変なので、階段のふもとにポケットパーク1、2があって、休憩ができるようになっているのはよい。(4)

● ポケットパーク1、2

- ・散歩の途中に一休みできるようなスペースとしたい。(4)
- ・“湧水のある休める広場”といったところである。(4)
- ・自噴井の確保のためにあまりに掘込むのであれば、ポンプアップなどでもよいだろう。(4)

● 港への導入部

- ・車の通行だけでなく歩行者も気持ちよく散歩ができるようにする。
- ・海への眺望が楽しめるようにする。

● 防潮堤と道路の谷

- ・防潮堤と道路の谷になる面積が広いのがもったいない。活用する方法があると良い。(5)
- ・農地にすることはできないか。(5)
- ・管理などの都合もあろうから、今後の課題とする。(5)

● 鎮魂の森・産業エリアの緑地

- ・町方からの連続性が感じられる森。
- ・防潮堤を隠し、圧迫感を軽減。
- ・森の中の小径を散歩できる。
- ・昔、港湾部に植樹をしたが管理がうまくいかなかった経験がある。(4)
- ・産業を優先し、緑地を減らして産業のためのスペースを確保するとよい。職があることが安渡のまちづくりにとっても重要である。(4)
- ・防潮堤の見えを隠す程度の1、2列の植栽帯があればよい。(4)
- ・鎮魂の森の緑が町方から海に最も近い広場までつながるとよい。(5)

● 県道

- ・県道の街路樹はハナミズキで、綺麗だった。再現してほしい。(4)

● 高台の広場(防集団地の各所)

- ・海への眺望が豊かな広場とする。
- ・近隣の方が井戸端会議ができるような広場とする。

● 安渡橋

- ・御神輿のルートでもある大切な橋なので再建してほしい。(2)
- ・大槌・安渡を結ぶ由緒あるルートなので、とても大事。(4)
- ・サケが水揚げの時に跳ね上がる様子は観光資産となる。安渡橋はその様子を眺める絶好のポイントである。(4)
- ・お祭りの御神輿が川に入る、もっとも盛り上がる地点である。(4)
- ・設計が進んでいるようだが、できれば住民としての意見を出したかったので残念である。(4)

● その他

- ・煙山さん商店の前にあった橋供養塔や、雁舞道にあった海難供養塔を広場や緑地の中に置かせてほしい。(4)
- ・商店は点在するよりもまとまった方がよい。旧県道沿いなどに集まるとよい。県道沿いについても産業エリアとの連携が期待できる。(5)
- ・水車がほしい。自然の力をつかったものでよい。(6)
- ・古学校地区から二渡神社の尾根に上がっていく道路がなくなってしまった。古学校が行き止まりにならないようにしてほしい。古学校地区、二渡神社の高台、安渡小がつながる動線を実現してほしい。(6)

平成 25 年度大槌デザイン会議成果
大槌デザインノート

赤浜地区

復興計画平面図

※当図面は確定したものでなく
あくまでもイメージです

■常楽院と常楽院前公園
・常楽院を現在の背後の敷地に再建
・常楽院の跡地を公園（駐車場兼用）として利用

■一丁目と漁港を接続
・漁港と住宅地を結ぶ階段
・付近にバス停を設置

■山腹の遊歩道
・被災時に水汲みに利用した道を保存

②防集団地
・一部は仮設住宅の撤去後に造成

①防集団地

■避難ホール・公民館と避難広場(現岩手県交通敷地)
・災害時の最終避難場所
・公民館と避難ホールを合築

■赤浜の「中心の広場」と周辺
・地域の人々が集まれるだけでなく、避難の目印としても重要な場所
・お祭り、盆踊りの際に利用する

■東京大学大気海洋研究所
・地域に開いた交流できる施設、景観に配慮した建築を要望

③防集団地
・三日月山を切土造成する団地
・強風対策、また景観に配慮し、団地周囲に植林

■3丁目の水場
・被災時に活用した井戸を平常時にも活用できるよう整備

⑥防集団地
・蓬莱島、海を望める団地
・各住宅毎に強風対策が必要

次項以降の資料では県道沿線の広場等の空間について示す。
内容は大きく下記の3点
1. 広場・公園等のあり方やイメージ
2. 道路その他の公共事業にて配慮すべき事項
3. 自宅建設等にあたって配慮すべき事項

■赤浜地区 復興計画・デザインコンセプト

『美しい海・ひょうたん島を眺めて暮らすまちづくり』

- 1. 日常と非日常の両方に活きる空間**
 - 津波を視覚的に認知でき、避難しやすい骨格をつくります
 - 地域のシンボルである常楽院、八幡宮、三日月神社を避難の目印とします
 - 避難時に不可欠な階段、斜路、道路、広場が日々の暮らしでも身近な場所となるよう設えます(→いざという時にも利用しやすくなります)
 - 災害時に水が入手できる溜まり場を避難場所に用意します
- 2. 被災前よりも美しく海・ひょうたん島を望む**
 - 県道沿いや重要な場所に桜を植樹し、桜と海を眺める風景を創出します
 - 海を望む風景の下、軒先、縁側、公共施設まで多様な交流の場を設けます
 - 海を望む道路沿いは、海への見通しを良くする住宅地とします(→分かりやすい避難経路が形成できます)
- 3. 被災前からの暮らし・風土、被災の記憶を継承**
 - 地域のシンボルであった小学校の記憶(桜・門柱など)を継承します
 - 地形を大きく改変する場所は、極力元の風景に近づけます
 - 町中の緑、庭など、身近に自然がある風景を再生、復興します
 - 津波到達高さや位置を何らかの形で視覚化することで後世に記憶を伝えます

凡例

- 区画整理(盛土)
- 漁集(盛土)
- 防集団地(切土)
- 広場・公園
- 事業用地
- 新設道路
- 既設道路

0m 50m 100m 200m
S=1:4000(A3) S=1:2000(A1)

■防潮堤と砂浜
・蓬莱島の正面は緩傾斜堤に
・砂浜の復元

蓬莱島（ひょうたん島）

■広場、公園のあり方

- 赤浜の『中心の広場』は、海を望む地域全体の交流の場所

- 中心の広場は**お祭り**、**盆踊り**等の**イベント**でも活用

- 各丁毎に家からも近い『**まちかど**』（身近な**自然**）を確保
※『まちかど』…各集落（一丁目・二丁目・三丁目を目安に）に1ヶ所ずつ設ける人が集まる小広場

- 常楽院前公園は『**一丁目のまちかど**』、八幡宮下公園は『**二丁目海側のまちかど**』、避難広場は『**二丁目山側のまちかど**』

住民意見

- 小さな広場公園がほしい。震災前公園を子供がよく使っていた。(A)
- 公園以外で子供が居られる場所が必要。(A)
- 震災前、身近に自然や緑があって、季節による変化を感じられたのが赤浜らしく感じられて良かった。(A)
- 各集落（一丁目・二丁目・三丁目を目安に）に1ヶ所ずつ、人が集まることができる『まちかど』を設ける(B)
- 全体が大きな公園みたいな計画だから、小さな公園をたくさん作る必要はない。(C)
- 家に近いところで遊べる場所が必要。(C)
- 他の地区と違い、海が見える場所になるので、赤浜に人々が集まるような広場になると良い。(C)
- 広場が分散すると子どもが自然に集まってこない。大きな広場一つとして遊べる広場と位置づけ、子ども達が自然に集まってくる場所にして欲しい。大きな広場が一つあれば多世代交流の場ともなる。(C)

■広場、公園のイメージ

- 広場、公園には、**モノ**を置きすぎず、自由に使える**スペース**を確保し、**適宜、ベンチ、植栽**等を配置

- 広場、公園には、**屋根付きの場所**を確保

住民意見

- 『まちかど』、『中心の広場』には、ベンチ、あずまやがあるとよい。(A)
- 水と緑がある、憩いの場がほしい。山側から出てくる水を活かす。(A)
- 井戸を囲んで寛ぐ場所がよい。管理も皆ですればよい。(A)
- 新たな公園はブランコや木でできた遊具などだけ設置して、ごちゃごちゃしていない方がいい。お年寄りが気軽に休める場所ができるとよい(C)
- 公園にはあずまやのような屋根付きの休める場所があると良い。(赤浜公園にもあった)(C)
- 最近、仮設住宅でもボランティアの方々がベンチ・花を置く台などを作り、そこに5、6人のお年寄りが集まるようになってきた。高齢者が集まれる場所作りは大切。(C)
- あずまや（屋根があって雨をしのげるような施設）が欲しい。(C)

■水場

- 『まちかど』には**井戸**を設置し、**災害時にも備える**

住民意見

- 井戸水や沢水は小さいミミズのような生物が混入していることもあり、活用にあたっては、衛生安全面からも検査してもらう必要がある。(A)
- せせらぎ水路は不要。各まちかどの湧水や井戸を重視したい。(B)
- 一丁目に水場がない。震災時は三丁目までもらいに来ていた。(C)
- (バスセンターと県道の交差点の角にある) 沢水はズックを洗ったり、汚いものを洗ったりする時に使う。ただし使いすぎると枯れることがある。(C)
- 歩いていける範囲（一丁目・二丁目・三丁目に1つずつ）場所毎にあった方がいい。(C)

■遊び場

- ボール**等を使う遊び場は**低地部**に確保し、『**中心の広場**』や『**まちかど**』は**気軽に休める場所**に

住民意見

- 震災前、小学生は赤浜公園や小学校の校庭で遊んでいた(C)
- 子供は遊び場があればどこでも遊べる(C)
- 震災前から子供は減ってきており、(公園の)お年寄りの利用も多かった(C)
- 前はサッカーなどを赤浜小のグラウンドでやっていたが、サッカーなどができる広場が無くなってしまっているので、欲しい。(C)
- 前は、赤浜の街じゅうが遊び場だった。隠れるところが沢山あった。(C)
- 人の家の二つも遊び場として使っていた。(C)
- 住宅の間の小道などが恰好の遊び場であった。(C)

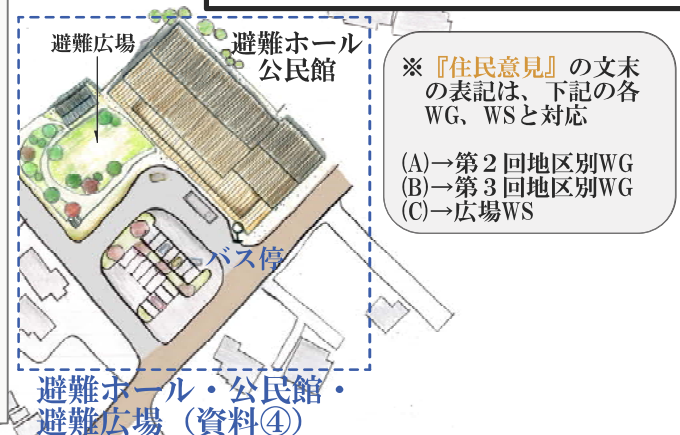
赤浜地区デザインノート②

県道沿線 復興イメージ平面図

0m 50m 100m 200m 400m

S=1:2000(A3) S=1:1000(A1)

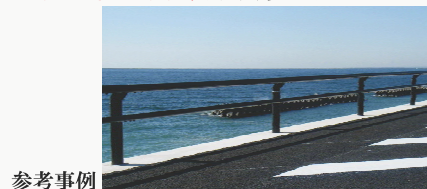
※当図面は確定したものでなく、区画整理地域の公共空間を対象とした地域住民の現段階の意向をとりまとめたものです。



■海の景観に配慮する道路

- 県道に沿って桜を植樹
※住宅から海への眺望を妨げない(植樹12m～15m間隔程度)
※海を望む道路からの眺望に配慮

- 車両用防護柵は海への眺望に配慮した透過性を高く(事例参照)



参考事例



県道イメージ

住民意見

- 小学校の桜は活かさないのか?(A)
- 海側のフェンスはなるべく海への眺めを妨げないものがよい。(B)
- 桜の木は、県道沿いに植えるのでよいと思うが、間隔を工夫して海と桜が両方楽しめるようになるとよい(C)

■バス停

- 旧赤浜小学校南側付近と新しい公民館前にバス停を確保(三丁目側にも別途確保)

- バス停には**屋根付きの待合所**を確保

住民意見

- バス停やスクールバスの乗降場は旧赤浜小学校南側付近と新しい公民館前でよい。(B)
- 冬は寒いので、町役場のバス停のように、それぞれのバス停に屋根と壁がついている待合所があったほうが良い(C)

■街灯

- 県道、海を望む街路に街灯を設置

住民意見

- 今は夜暗いので街灯があった方がよい。特に県道。(C)
- 以前は学校の帰り道が暗かった。優しいあかりが欲しい。災害時にも必要(C)

■赤浜小学校の門柱（記憶の継承）

- 赤浜小跡地付近に門柱を設置

住民意見

- 小学校の門柱を現在の小学校の門のあたりに残せないか、県道沿いか、7m道路程度の主要な道路の近くの地域の人の目につきやすいところが良い、大きな公園ではなく、小さな場所で構わない(B)

■地形改変への配慮

- 切土面が山になる製品を使用

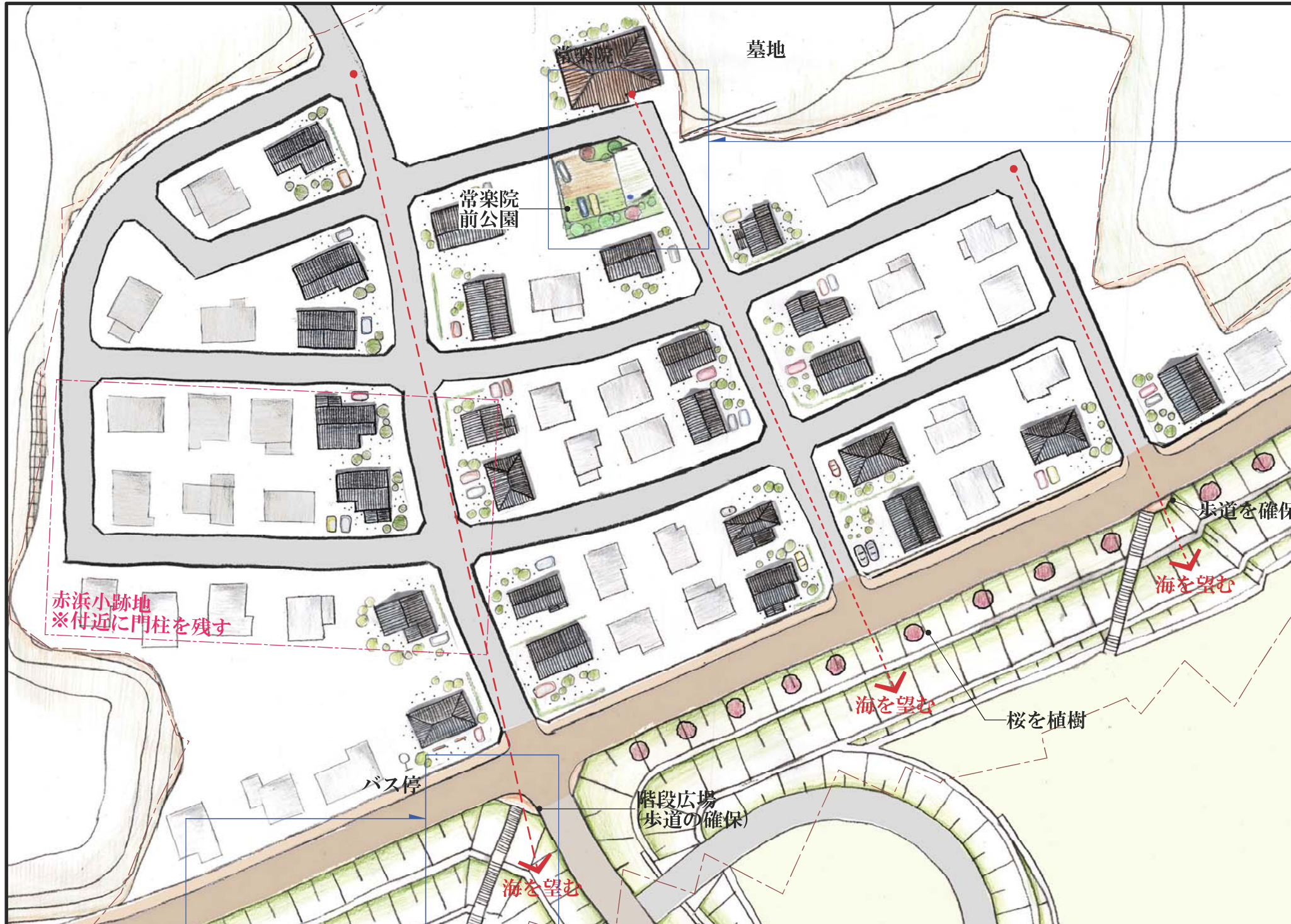


- 強い海風対策として**防風林**を設置



住民意見

- 樹木を伐採することで、風の向きが変わるので、それを活かしてまちづくりをしてほしい。(2)
- 山際の緑は防風林等の機能があるので保全してほしい。(2)
- 三日月山を削れば、冬場の西風が強くなるため防風林が必要(B)



- ・常楽院と常楽院前公園を一体的に明るいイメージに
- ・公園は、常楽院の庭のように。常楽院やお墓を利用する際の駐車場も兼用
- ・日常は墓参り、花の水やりにも利用できる井戸を設置(災害時への備え)
- ・駐車場は単にアスファルト舗装とするのではなく、日常では広場と一体的に利用できるデザインに(事例参照)



駐車できる芝生舗装(樹脂ネット)

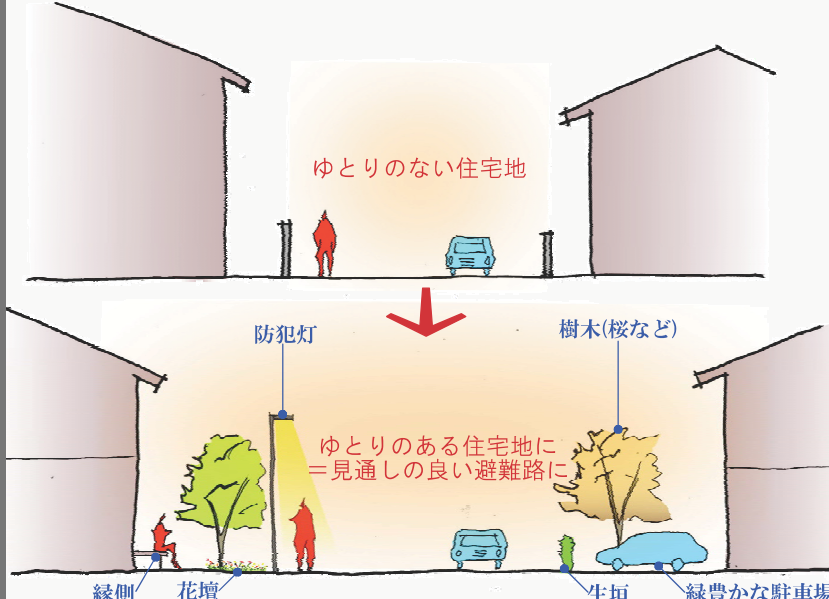
階段と階段広場(歩道)の確保

- ・高齢者も使いやすく、避難時にかけあがりやすい階段
- ・階段と県道との間には階段広場(歩道)を設け、安全を確保
- ・階段広場(歩道)に転落防止柵を設置する場合は透過性の高い横ビームの製品に

住民意見

- ・県道から海側に張り出してスペースを作れないか。(A)
- ・一丁目のまちかどは岡本酒店付近がよい。このあたりは蓬莱島も対岸の町方、小枕方面もよく見える。(B)
- ・低地部から広場に上がる階段には必ず手すりが必要。手すりが必要などところを総合的に考えてきちんと設置しないと高齢者は結局、最後に逃げられない。(C)

海を望む道路と住宅計画



- ・道路から少しゆとりを持って住宅を建て、見通しの良い緑豊かな住宅地に(分かりやすい避難路に)
- ・例えば道路脇を緑豊かな駐車場、庭などに利用。道路沿いは、ブロック塀でなく生垣とするなど。
- ・優しい明りの防犯灯を設置
- ・小学校の記憶を継承し、跡地付近に門柱を設置

住民意見

- ・高齢者ドライバーも増えるし、とにかく安全が重要。(C)
- ・赤浜小の近くの南北道路沿いあたりに桜の木が少し植わった方が、ここに小学校があったという目印になる。(C)
- ・小学校の門柱を現在の小学校の門のあたりに残せないか、県道沿いか、7m道路程度の主要な道路の近くの、地域の人の目につきやすいところがよい、大きな公園ではなく、小さな場所で構わない。(C)
- ・ブロック塀をたてるとしても建てて良い段数を決める。(C)
- ・ブロックだと暗いイメージになる。(C)
- ・道路沿いは、花壇、木々、などを設ける。(C)
- ・色は優しい色で統一したい。(C)
- ・ゆとりのある配置にするのは良い。(C)
- ・以前は学校の帰り道が暗かった。優しいあかりの街灯が欲しい。災害時にも必要。(C)

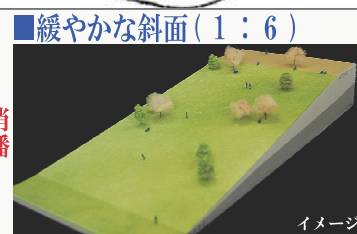


■八幡宮裏から広場・海を望む

- 八幡宮下公園
- ・八幡宮と大縄道路を結ぶ参道空間
- 中心の広場
- ・海、ひょうたん島を望む「中心の広場」。消防屯所、東大海洋研と一体的な空間に。八幡宮下公園と一体化する交差点のデザインに。
- 大縄道路
- ・震災前の暮らしを継承する道

住民意見

- 広場と周辺のあり方、配置
- ・二丁目の『まちかど』は八幡神社下とする。(B)
- ・広場は県道沿いであれば、待ち合わせの場としても他地区から来やすい(B)
- ・広場は県道より海寄り、奥の方であれば安全。子供はきっと逃げ足が速いから少し海側でも大丈夫なのは。(C)
- ・震災後、子供が遊びに行く時はいつも車で送り迎えているため県道沿いに遊び場があるのは送り迎えしやすく良い。(C)
- ・屯所は低地部でも山のほうでもなく、赤浜地区の真ん中にあるのがいい。県道沿い山側の宅地内で土地をとるのはもったいないので住宅地に支障がない場所に。(C)
- 広場と周辺のイメージ
- ・八幡宮下は、降雨時に鉄砲水が発生するので注意が必要。(A)
- ・八幡宮下には防火水槽がある。日常的にも水が出ているようなかたちで活用できないか。八幡宮の上からも沢水が流れてくる場合がある。(B)
- ・二丁目の『まちかど』は現八幡神社の下付近が適当だと思うが、東大海洋研が建つと海が見えないのではないかな。(B)
- ・低地部と連続して散歩出来る様にしたほうがよい。(B)
- ・自転車で船溜に行く人もいる。(B)
- ・広場に水場等は必要なく、ただの広い広場でよい。(B)
- ・買い物できるところが少ないので広場の近くにコンビニがあると良い。地元の人も東大の人も利用できる。以前は赤浜公園の近くに商店があって良く利用した。(C)



イメージ



赤浜地区デザインノート④

二丁目周辺 復興イメージ平面図

0m 50m 100m 200m 400m
S=1:1000(A3) S=1:500(A1)

※当図面は確定したものでなく、区画整理地域の公共空間を対象とした地域住民の現段階の意向をとりまとめたものです。

避難ホール・公民館と避難広場

- ・仮設住宅撤去後に広場を建設
- ・小学校の記憶を継承し、桜を植樹
- ・災害時にも使える水場を分かりやすい場所に設置
- ・建物の庇を伸ばし、バス待合場の屋根とする

住民意見

- 施設と周辺の関係
- ・旧公民館は駐車スペースが2台分しかなく不便だったので、新しい公民館は駐車場をできるだけ確保したい。(B)
- ・有事の際に防災井戸として水を確保できることが重要。それが確保できなければ、避難ホールの意味がない。日常的にも水がある場所がわかった方がよいのではないかな。(B)
- ・バス巡回場の内側の県道と西側からの道路の交差点の角に水場やあずまやを設けて、休憩できる場としたい。(B)
- ・運動施設以外にも、プラスバンドなど、様々な使われ方が可能なのか。(C)
- ・ここがいざというときも含めて、まちの真ん中になるというイメージがあって良い。(C)
- ・バス停は（ここに限らず）屋根付きでないと困る。(C)

- 施設前の『避難広場』
- ・これまで話し合ったこと（建物内部だけでなく、軒下にも人が集まっていた、それが県道やバス停からも感じられるような空間構成など）を、ちゃんと描く／書くべき。(C)
- ・避難ホール前に広場をつくって欲しい。(C)



広場周辺の住宅計画

- ・広場側に背を向けない。正面性を確保。
→玄関、大きな窓、庭を広場側に設ける等（事例参照）
- ・広場周辺にお店、おしゃべりできる縁側等があると賑わいができる

住民意見

- ・買い物できるところが少ないので、広場の近くにコンビニがあると良い。地元の人も東大の人も利用できる。以前は赤浜公園の近くに商店があってよく利用した。(C)



参考事例：鶯崎公営住宅（遠野市）

※下記を東大気海洋研究所に要望

東大気海洋研究所 研究施設

- ・施設の一部を地域に開放。
- ・子供達が日常的に立ち寄れて海のことを知れるような「交流」できる施設に。
- ・一階に喫茶店ができると望ましい
- ・広場、住宅地側から見た高さを住宅2階建て程度に
- ・広場、斜面に顔を向けた建物
- ・広場と一体的なエントランス空間（舗装材等の統一）

東大気海洋研究所 宿泊施設

- ・圧迫感のない、住宅地になじむ建物に

住民意見

- 施設内容
- ・東大海洋研にも地域で活用できるスペースがあるといい。(A)
- ・東大の研究所に、住民が交流したり、利用できる施設があることが望ましい（これまでは海洋研は閉鎖的で住民と交流はなかった）→喫茶店（スタバ）やカラオケルームなど。(C)
- ・東大の施設は単に「開放的」な施設とせず、「交流」できる施設にして欲しい。子供達が日常的に立ち寄れて海のことを知れるとよい。（海の日に行っていた大学の開放をもっと頻繁に行って欲しい）(C)
- ・東大の屋上に天体望遠鏡が欲しい。(C)

- 施設の高さ
- ・海洋研は2階程度であれば、眺めは大丈夫ではないか。海洋研の屋上など、施設の一部を地域に開放してくれるとよい。(B)
- ・海洋研の建物は海を望む軸上に建っているため、海が見えなくなる、あまり大きな建物になるのはよくない。(C)
- ・東大の建物は高くしないで欲しい。(C)

平成 25 年度大槌デザイン会議成果
大槌デザインノート

吉里吉里地区

■吉里吉里地区 デザインノート

『まちづくりの方針と計画の考え方』

<復興まちづくりの方針>

『これからも海と山と、地区のみんなと共に暮らすまちづくり』

- ・海とつながり、緑に包まれた美しい町をつくる
- ・みんなが普段から顔を合わせ、集まれる場所をつくる
- ・子供から年寄りまで、歩いて暮らせる町をつくる
- ・普段から使う道や場所が、災害時の避難路や活動拠点となる災害に強い町をつくる

1. <みんなの集まるまちの広場>

地区のコミュニティの核となる場所をつくるために、海の軸沿いの町の中心部に公民館とまちの広場をセットで設ける。さらに、みんなが自然と広場に立ち寄るために、広場の周りには日常的に利用する郵便局や商業施設を配置する。

※詳細は2枚目を参照。

5. <歩きやすい道と緑あふれる町並み>

歩いて暮らせる町にするために、すべての道路は歩行者優先の道とする。海の軸の舗装デザインを基準に、全体として統一した雰囲気の道をつくる。気持ちよく歩ける町並みをつくるために、地区の住宅ガイドラインをつくり、住宅を再建する人たちへの願いをおこなう。

※詳細は6枚目を参照。

災害公営住宅

高齢者が多く入居するため、海の軸沿いのまちの中心部に配置する。また海の軸の魅力を高めるために、道と一体となる敷地構成とする。

金比羅神社脇の広場

海の軸の端部に、子供たちの遊び場と神社のお祭りに使う広場を設ける。

消防屯所

想定を超える津波が発生しても活動できるよう、できるだけ標高が高く、かつ国道に出やすい位置に設ける。

赤浜坂

吉里吉里中学校への通学路にもなるため、部活で遅くなった子供たちも安心して歩ける、明るい道にする。

らふたあヒルズへの道

まちと、西側エリアが分断されないように、災害危険区域の買収地を活用し、現・国道45号から農村広場下交差点までを滑らかな道路線形に改築する。

JRを越えて高台に行く道

高台への避難路と通学路を確保するために、小学校脇の道を鉄道アンダーパスによって4丁目まで繋げる。

天照御祖神社下の広場

天照御祖神社例大祭にとって大切な場所を確保する。普段はゲートボールなどができる広場とする。

<町と海をつなぐ海の軸>

海の軸（区8-1・区8-3・2号公園）は、海への散歩道であると同時に、高台への避難路と接続する、町の骨格として最も大切な道である。そのため、海の軸沿いに広場や公民館などの公共空間を配置し、まちなかから海の広場・砂浜までを、連続的な広場的空間として整備する。

4. 【海の軸からつながる海の広場と砂浜】

海の軸から砂浜までスムーズにつながるように、防潮堤と国道に挟まれた場所を盛土することで海の広場をつくる。広場には産直や眺望広場、駐車場を設け、緩傾斜の防潮堤や砂浜と一体となる賑わいの場所とする。

※詳細は5枚目を参照。

3. 【2号街区公園区間】

※詳細は4枚目を参照。

海への散歩道になる歩道を設けると同時に、公園内には季節を感じられる樹木も配置し、お花見などを楽しめる場所をつくる。

2. 【まちなか区間】

※詳細は3枚目を参照。

海や緑を感じながら付める広場的な道にするために、災害公営住宅など沿道宅地と一体的に整備する。町角にはポンプ井戸のある小広場、道沿いには樹木やベンチを設ける。

●：ポンプ井戸

Scale = 1/2,000

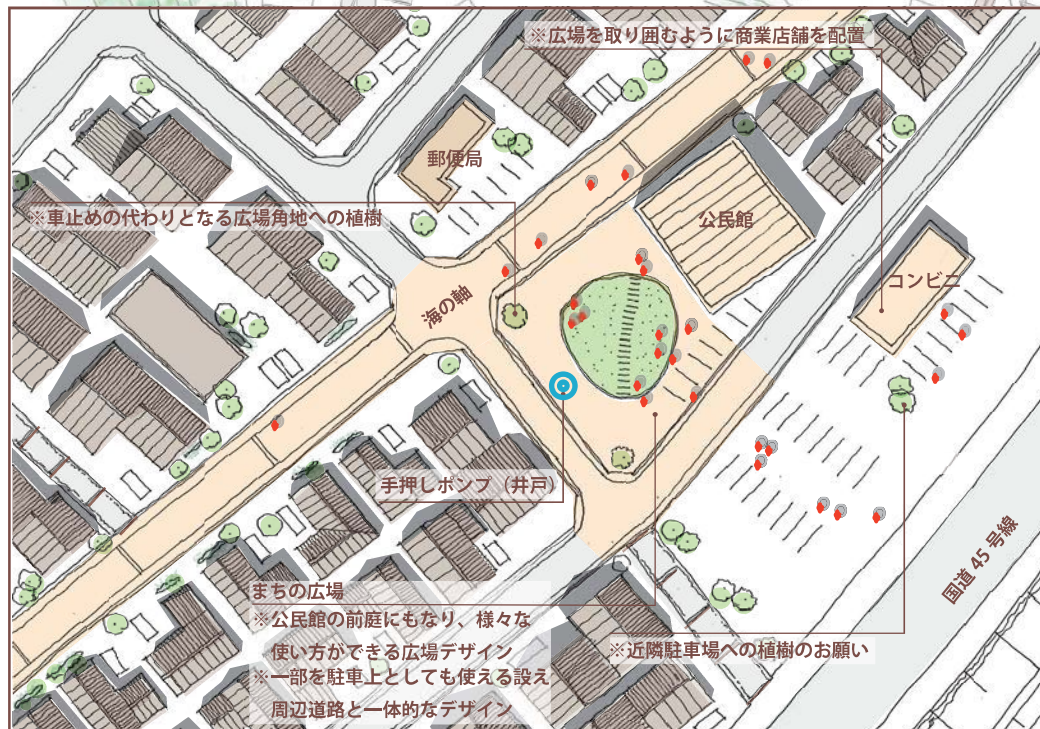
0 20 40 60 80 100 (m)

注：現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります

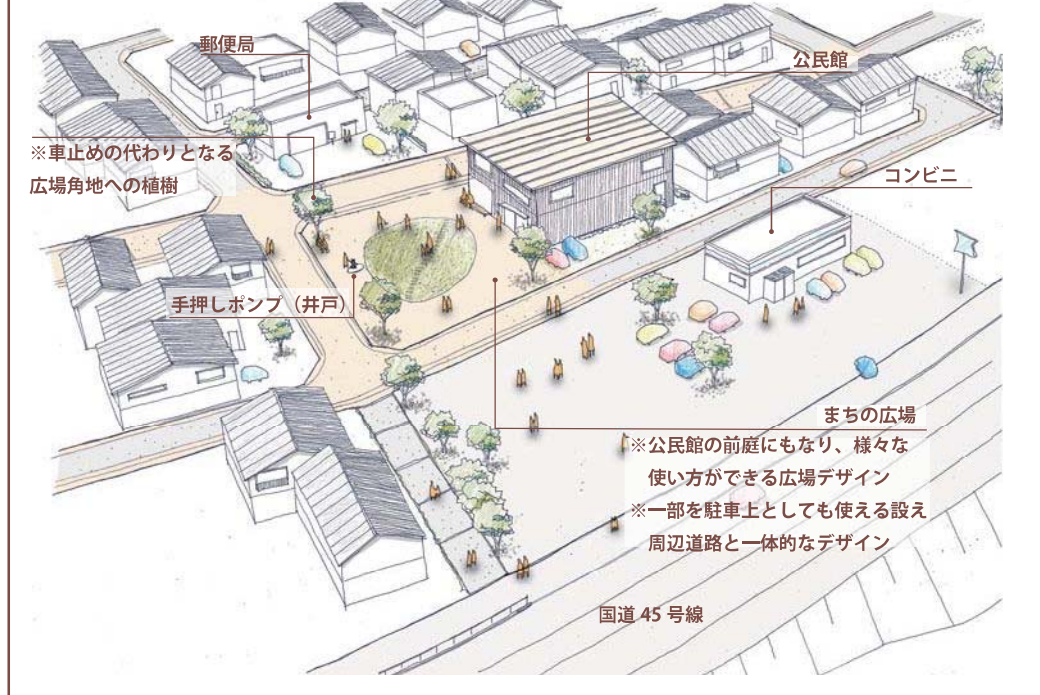
1. <みんなの集まるまちの広場>

地区のコミュニティの核となる場所をつくるために、海の軸沿いの町の中心部に公民館とまちの広場をセットで設ける。さらに、みんなが自然と広場に立ち寄るために、広場の周りには日常的に利用する郵便局や商業施設を配置する。

■平面図① (S=1/1000)



■パース①



■公園参考事例（武蔵野プレイス（東京都武蔵野市））



■公園参考事例（ふらっとスクエア（徳島県三好市））



■ポンプ井戸参考事例（日向市駅前広場（宮崎県日向市））



■ 地区別 WG、WS での意見

【配置について】

- ・みんなが集まりやすいように、広場や公益施設はセットで配置するのが良い。健康診断等でバスが2台程度くる。併設にして、他の場所も維持的に利用できるような空間が良い (2WG)
- ・公民館は地域の中心（区画整理区域内）に配置される事が地域としての意見である (2WS)
- ・公民館は歩いて行ける場所が良い。歩いて行ける場所にあれば駐車場はそれ程必要ではないかもしれない (2WS)
- ・国道を渡らずに行けるように (2WS)
- ・公民館、広場を中心にまちづくりを行う (2WS)
- ・郵便局は町の中心にあった方が良い (2WS)
- ・郵便局は多くの人が行きやすい場所が良い。国道沿いでなく、まち中で良い (2WS)
- ・ローソンなど国道を通る人が多く使うものは国道沿いに、地域のみんなが歩いていくようなもの、例えばパーマ屋さんなどはむしろまちの広場の周りにある方が良い (2WS)

【デザインについて】

- ・世代をこえて集える場所にしたい。必ずしも公園という設えにしなくても、使いやすい場所にして欲しい (2WG)
- ・空き地のようなイメージでも良い。芝生が帰って邪魔になる場合もある (2WG)
- ・他からも分かりやすいように、公民館などの公共施設は特徴あるものにして欲しい (2WG)
- ・駐車場は他の公共施設と供用で設けて台数を確保する (2WS)
- ・公民館の前庭のようになり、みんなが集まってくるような場所にしたい (2WS)
- ・広場に手押しポンプの井戸を掘る。ぶっこみ（パイプを打ち込む）でも良いが、長持ちさせるには、穴を掘った方が良い。昔は街中に井戸がいくつかあった (2WS)
- ・周囲を芝生にして柵をつけない方が良い (4WG)
- ・車止めの代わりに樹木を植える (4WG)
- ・今後はもっと具体的なデザインの検討を行っても良いのではないか (5WG)

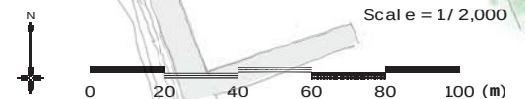
【使い方について】

- ・ラジオ体操や盆踊りができると良い (2WG)
- ・普段は広場として利用でき、必要時は駐車場としても使えるような設えが良い (2WS)
- ・さまざまな使い方ができるようなしつらえがよい (2WS)
- ・道と広場を一体的にデザインして、イベント時には道も広場的に使えるように (4WG)
- ・ローソン、潮風堂の販売店舗、美容院、郵便局などは公民館の周囲に集まって欲しい。駐車場を共有できればお店も利用者も互いに便利である (4WG)
- ・文化は大切なので、吉里吉里地区でも文化的なものにお金を掛けられるのは良いことだと思う。公民館の中にそのような機能があっても良い (5WG)

【その他】

- ・公園の名称も大事である (2WG)

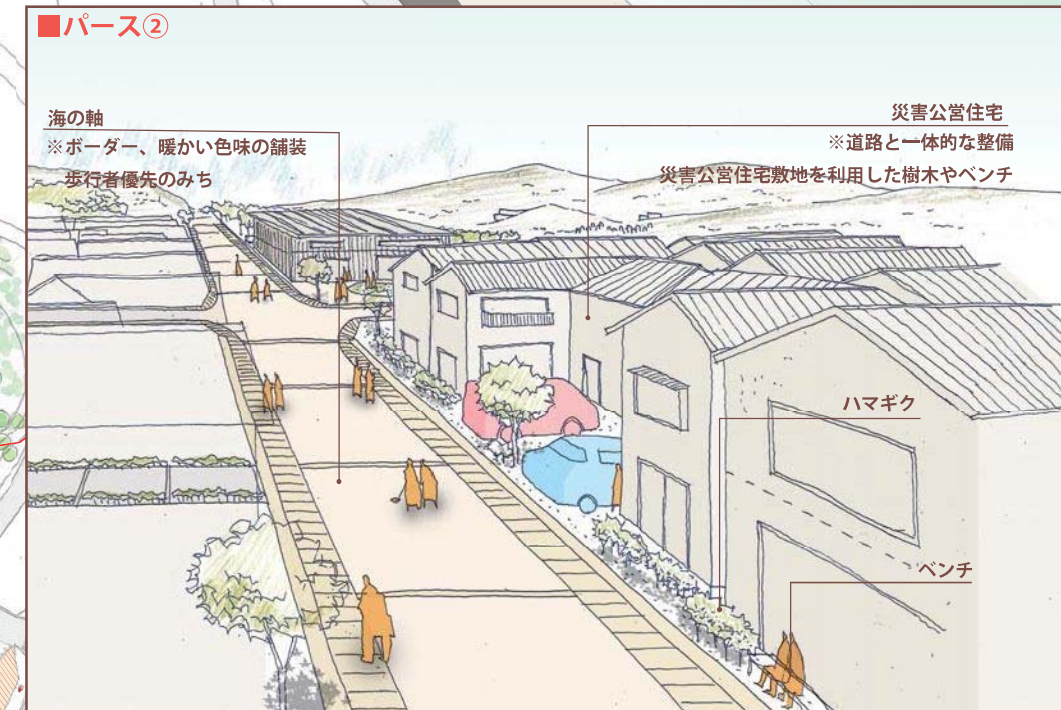
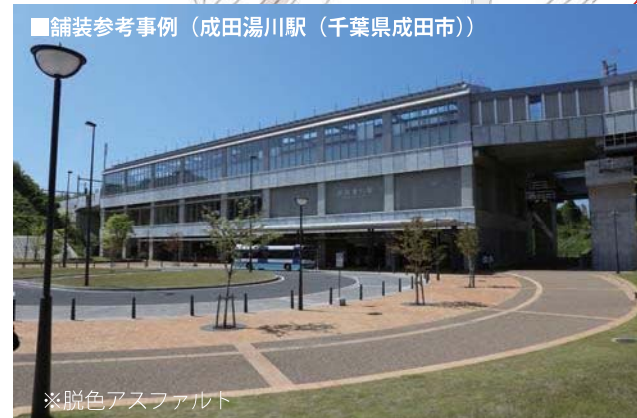
※2WG：第二回地区別 WG、2WS：第二回復興まちづくりワークショップ
4WG：第四回地区別 WG、5WG：第五回地区別 WG



2. 【まちなか区間】 <町と海をつなぐ海の軸>

海や緑を感じながら佇める広場的な道にするために、災害公営住宅など沿道宅地と一体的に整備する。町角にはポンプ井戸のある小広場、道沿いには樹木やベンチを設ける。

■平面図② (S=1/1000)



■ 地区別 WG、WS での意見

【道路について】

- ・海の軸は海が見えるように、路駐されないような空間にして欲しい。歩行者中心のみちになると良い (2WG)
- ・高齢者に優しく (2WS)
- ・歩行者優先のイメージ (2WS)
- ・海の軸上の水路は通常は水が流れていないので必要ない。それよりもむしろ吉里吉里には井戸があったことを考えると、街角に井戸を配置するのはどうか。災害時の水の確保にもつながる (2WS)
- ・できれば海（水平線）が見えるようにしたい (3WS)
- ・脱色アスファルト（写真参照）は土に近い色味で良い雰囲気である (4WG)
- ・ボーダーを入れると、普通の道路ではないことが視覚的に伝わる (4WG)

【街並みについて】

- ・建物ばかりだと風景として良くない。海を隠して欲しくはないが、広場や緑が見えるような空間にして欲しい (2WG)
- ・街並みは壁の色や屋根の色など色彩も大切である (3WS)
- ・災害公営も海の軸の街並みに寄与してくれると良い (3WG)
- ・模型やイメージ平面図で示されているようになれば非常に良い雰囲気である (3WS)
- ・海に対して開けたイメージになると良い。広場内の商業利用に際しては、通りから海への眺望を妨げないように配慮されるべきである (3WG)
- ・宅地内に植樹のスペースを取る (4WG)

【配置について】

- ・災害公営住宅の入居者はお年寄りが多いだろうから、町の真ん中に住んでもらうのが良い (2WS)
- ・海の軸沿いに災害公営住宅を配置することで、道沿いに木を植えたり、ちょっとしたベンチを置いたりできるとよい。海の軸の景観を良くするためにも活用できる (2WS)
- ・災害公営住宅は海の軸の山側に配置すると良い。そう考えると、提案の位置は海の軸上で、かつ広場にも近いことから、ここに配置するのが良いのではないかと (2WS)

※2WG：第二回地区別 WG、2WS：第二回復興まちづくりワークショップ
3WG：第三回地区別 WG、4WG：第四回地区別 WG

3. 【2号街区公園区間】 <町と海をつなぐ海の軸>

海への散歩道になる歩道を設けると同時に、公園内には季節を感じられる樹木も配置し、お花見などを楽しめる場所をつくる。

■平面図③ (S=1/1000)



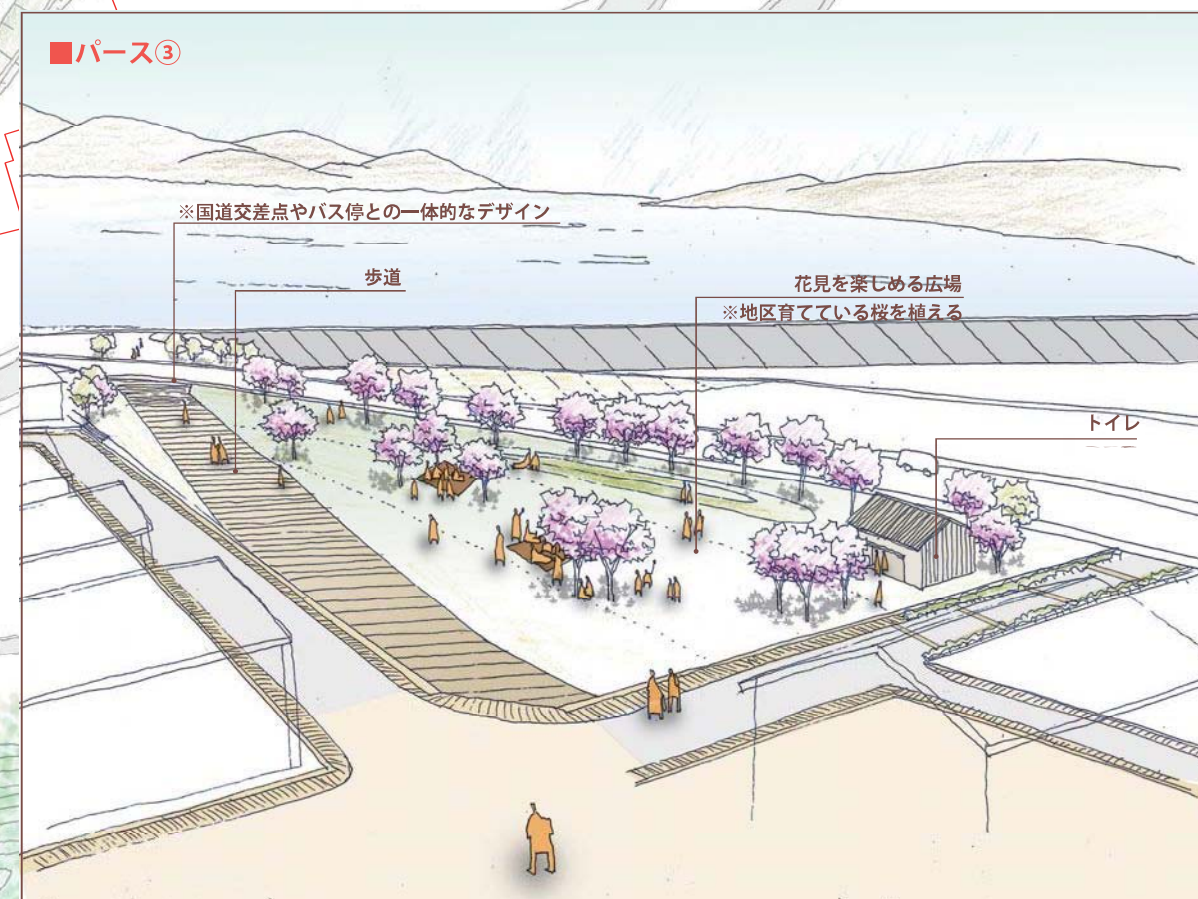
■ 地区別 WG、WS での意見

- ・吉里吉里では花を育てるボランティアをやっていた。ハマギクは潮風に強く、手がかからず育てやすい。木に近いような性質で秋に2～3本残して切ってしまうと、翌年まだ生えてくる (4WG)
- ・今は吉里吉里地区で桜の苗木を200本育てている。1m程度になっている (4WG)
- ・育てた桜を海の広場 (三角形の広場) に植えて花見の場所にする (4WG)
- ・トイレがあると良い (4WG)

※4WG：第四回地区別 WG

■平面図③

■パース③



4. 【海の軸からつながる海の広場と砂浜】 <町と海をつなぐ海の軸>

海の軸から砂浜までスムーズにつながるように、防潮堤と国道に挟まれた場所を盛土することで海の広場をつくる。広場には産直や眺望広場、駐車場を設け、緩傾斜の防潮堤や砂浜と一体となる賑わいの場所とする。

■ 地区別 WG、WS での意見

【デザインについて】

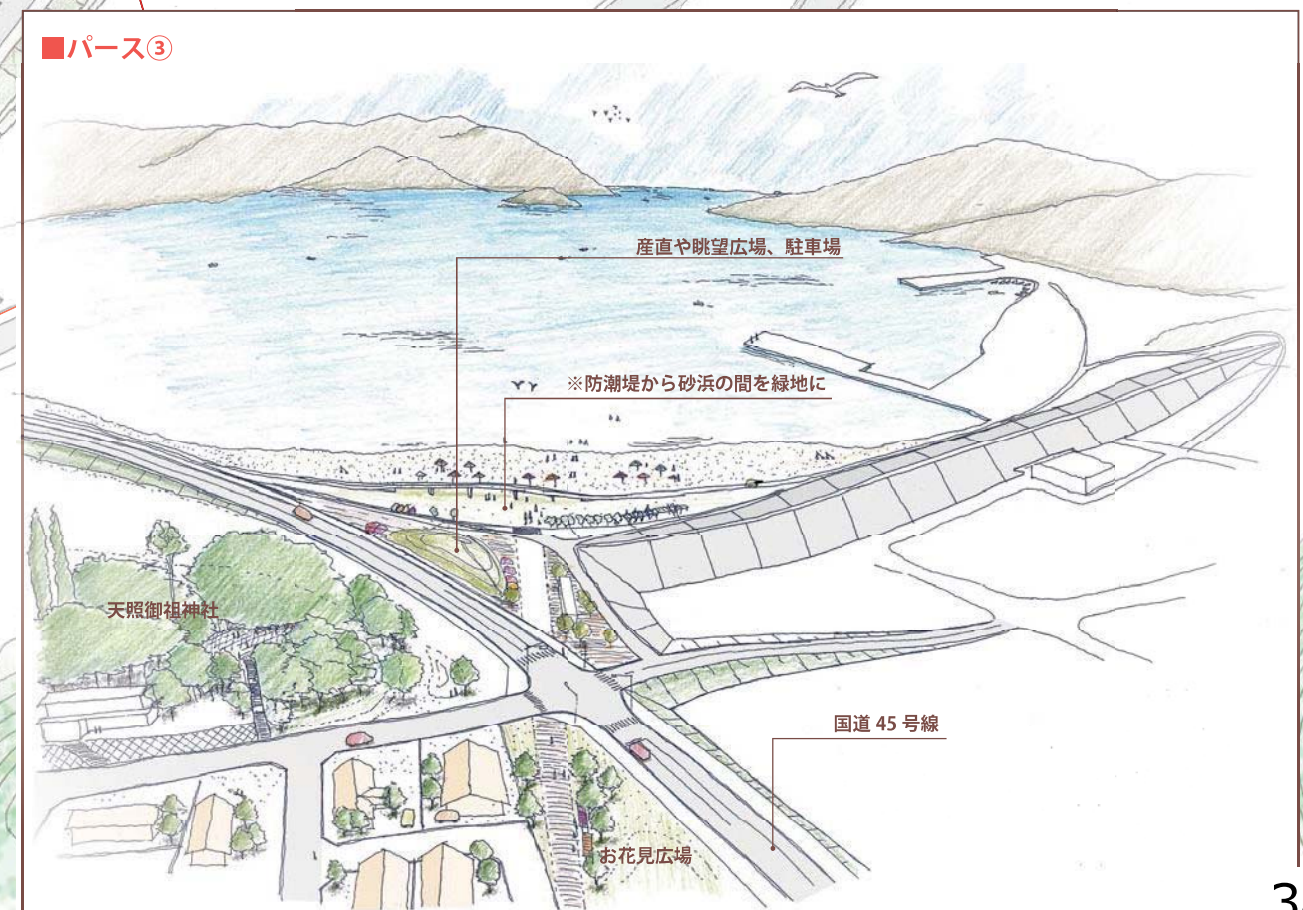
- ・海との繋がりがわかりやすい空間になると良い。海の軸からの連続の先に海への視線を阻害するように建物が立地するのは良くない (2WG)
- ・砂浜へなだらかに降りれる階段があると良い (2WG)
- ・海を眺望できる丘があってもよいのではないかな (2WS)
- ・産直など民間が立地できるような土地にしておく (3WS)
- ・駐車場は必要 (3WS)
- ・丘があるのは良い (3WS)

【使い方について】

- ・産直施設を町で計画して、テナントで民間が入れるようにして欲しい。個人で自力計画するのは無理。夢物語になってしまう (2WS)
- ・広場の上と下の両方の活用方法を考えないといけない。海水浴に対応した海の家やバーベキュー場などが考えられる (2WS)
- ・駐車場も必要だが、全部、駐車場にしてしまうのはもったいない (2WS)

※2WG：第二回地区別 WG、2WS：第二回復興まちづくりワークショップ

3WS：第三回復興まちづくりワークショップ



5. <歩きやすい道と緑あふれる町並み>

歩いて暮らせる町にするために、すべての道路は歩行者優先の道とする。海の軸の舗装デザインを基準に、全体として統一した雰囲気の道をつくる。気持ちよく歩ける町並みをつくるために、地区の住宅ガイドラインをつくり、住宅を再建する人たちへの願いをおこなう。

■ 地区別 WG、WS での意見

【街並みについて】

- ・塀があるのはあまり良くない (3WG)
- ・道と宅地の境界にササやハマギクなどちょっとした植栽があっても良い (4WG)
- ・境界さえはっきりしておけば、フェンス等はなくとも良いのではないか (4WG)
- ・電柱は茶色にする (4WG)
- ・電柱は海の軸の裏通りに回せないか (4WG)
- ・かっこいい街灯をつけて欲しい (4WG)

【みちについて】

- ・例えば主要な通りを「善兵衛通り」という名前にする案もあるのではないかな。善兵衛のイメージとしては上の方（郵便局の方）だが、目抜き通り（海の軸）にする案もあるのではないかな (3WG)
- ・まち全体でも舗装のテイストを合わせると良い (4WG)

【まちづくり】

- ・地区計画にするためには、皆の賛同が必要であり、手続きにも時間がかかりハードルが高い。例えばまちづくり委員会などの組織をつくって、そこからのお願いという形でやれば良い (4WG)
 - ・今後は、外構や屋根などの仕上げについてもルール化して、せっかく良い街を造るのだから住民が協力していくことも大切だ (5WG)
- 【お願いの例】
- ・間口は駐車場を寄せて、隣り合う2戸のスペースを集めて、植栽をして欲しい。
 - ・ハマギクをどこかに植えて欲しい。
 - ・屋根の色を何かの色にそろえて欲しい。
 - ・フェンス、ブロックは極力使わないで欲しい。

※3WG：第三回地区別 WG、4WG：第四回地区別 WG
5WG：第五回地区別 WG



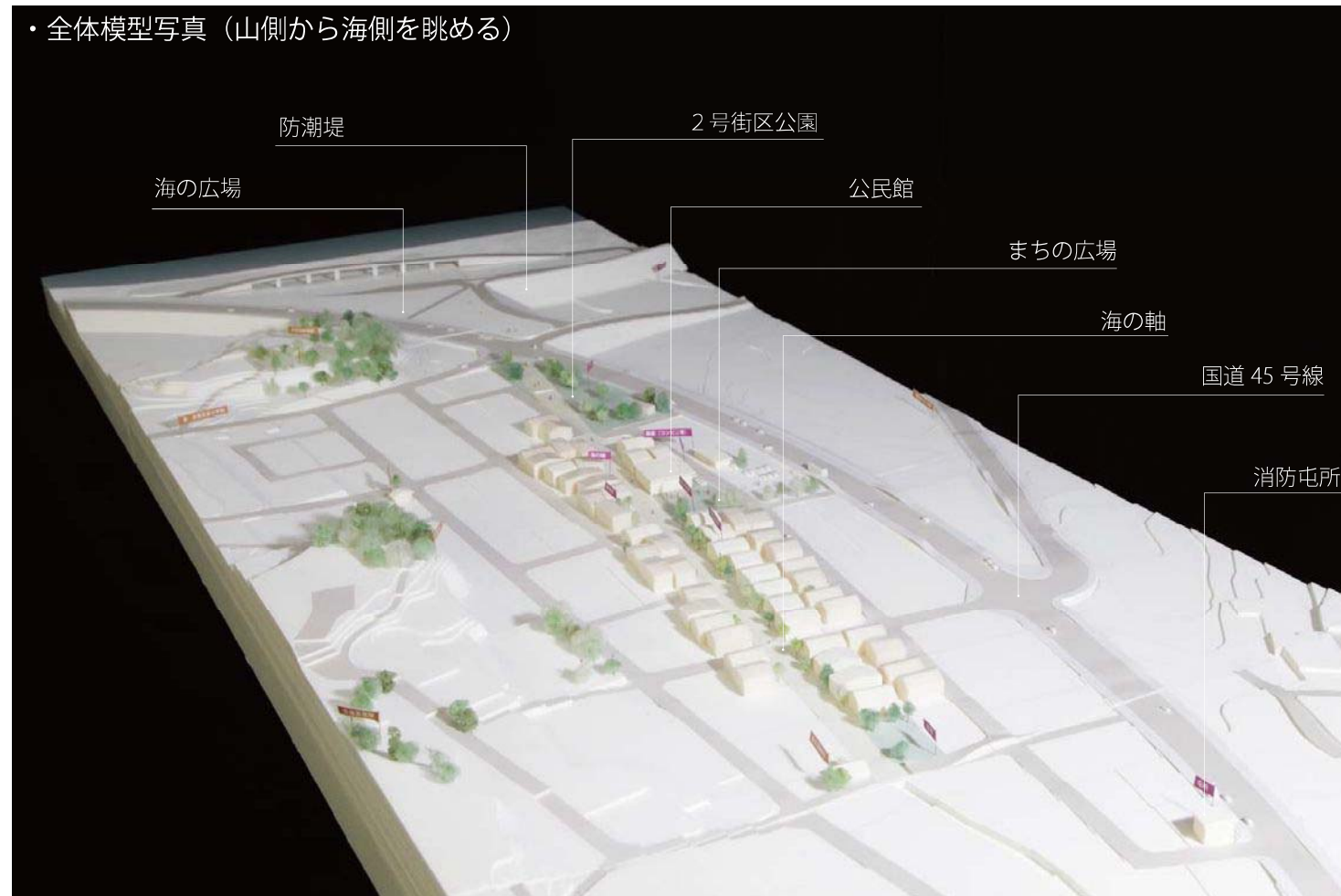
■まちなみ参考事例（大分県由布市）



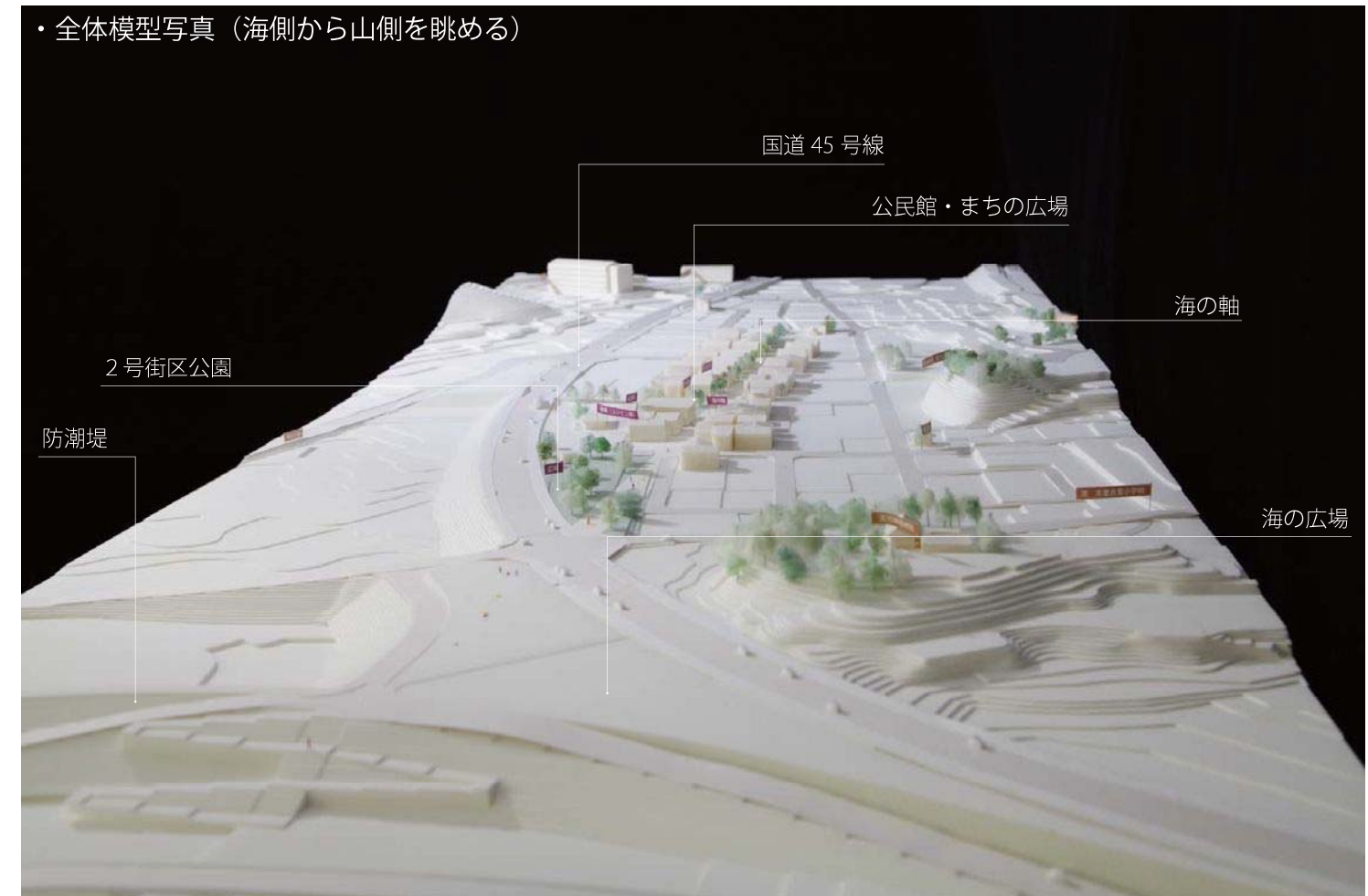
■まちなみ参考事例（シーサイドもち（福岡県福岡市））
※ボーダー舗装



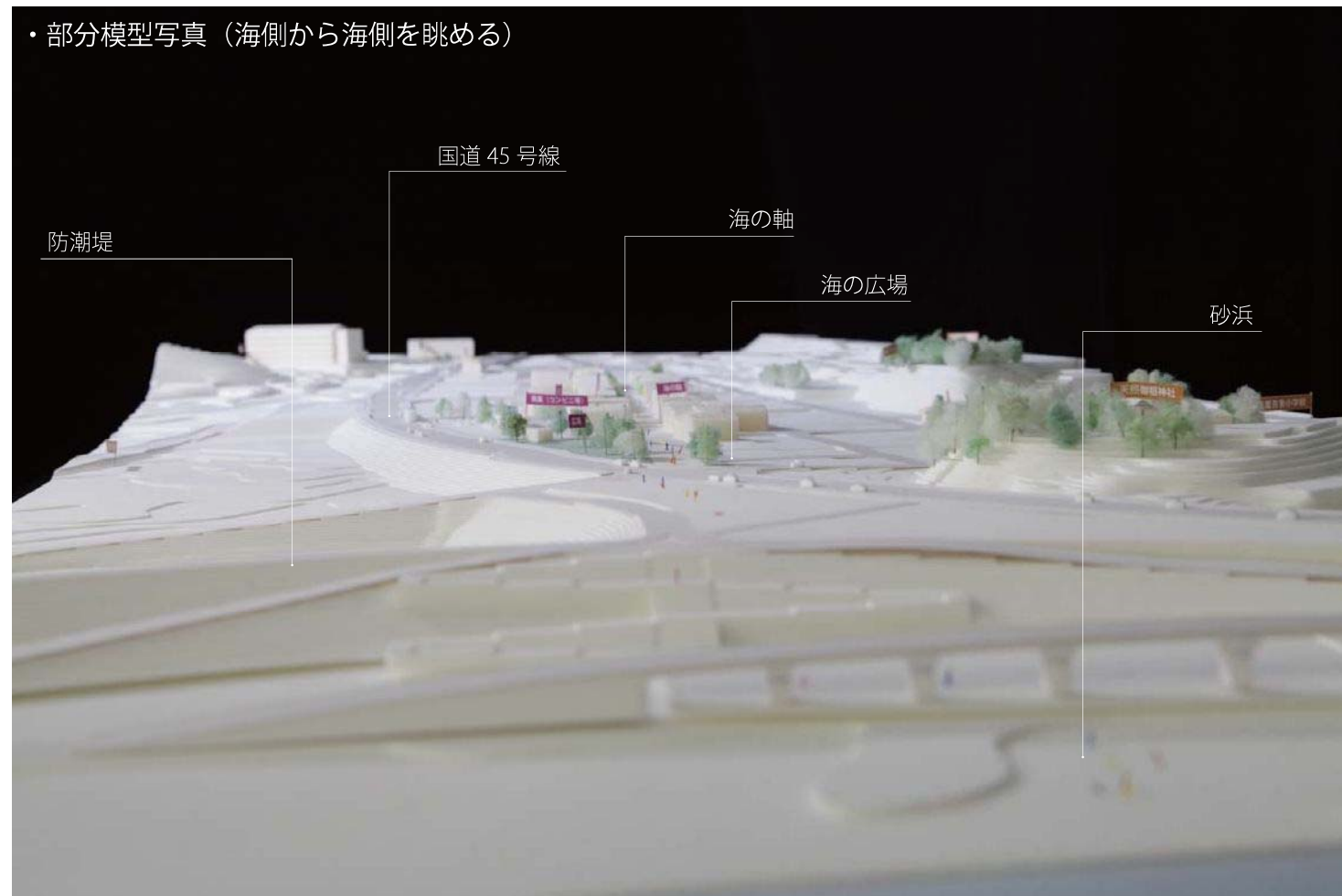
・全体模型写真（山側から海側を眺める）



・全体模型写真（海側から山側を眺める）



・部分模型写真（海側から海側を眺める）



・部分模型写真（国道45号線側から山側を眺める）



平成 25 年度大槌デザイン会議成果
大槌デザインノート

浪板地区

■浪板地区 デザインノート

1. まちづくりの方針と全体計画の考え方

<復興まちづくりの方針>

『暮らしと観光を両立させる美しいまちづくり』

- ・緩やかな斜面地に住居と農地の混じりあう穏やかで豊かな生活風景を維持できるまちをつくる
- ・観光資源である浪板海岸の魅力を再生する
- ・普段の散歩道が災害時の避難路となる、住民も観光客も避難しやすい道をつくる
- ・地区のコミュニティの絆を高める仕組みをつくる

<緑に包まれた高台の住宅地>

既存住宅と防集団地を中心とする新しいコミュニティをつくるために、気軽に集まって話ができる公園と、住民が生産・維持管理する市民農園（クラインガルテン）をセットで設ける。

また、住居と農地が混じりあう浪板の風景を継承できる宅地造成をおこなう。

<市民農園など地区のコミュニティを高める仕掛け>

災害危険区域の町有地や、防集団地の緑地を活用し、地区住民のふれあいの場所となる市民農園や子供グラウンドを設ける。場所の管理・運営は住民たちでおこなう。

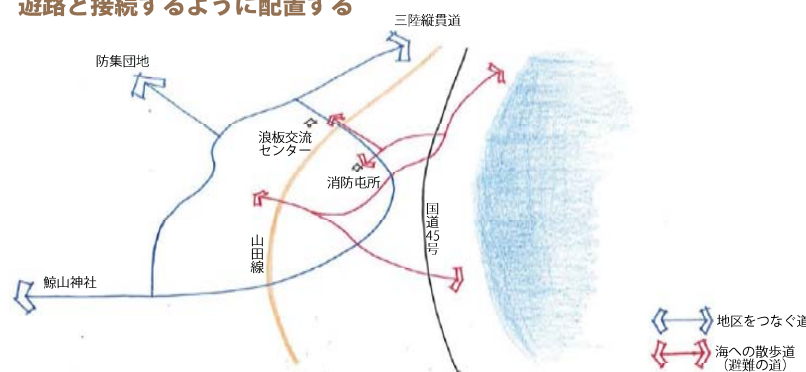
<海岸までの散歩道と、地区を回遊する道>

「海岸までの散歩道」

浪板交流センター前通りは、町と海をつなぐ、まちの中心となる道である。また、駅は電車で訪れる観光客が最初に降り立つ場所である。日常の散歩道、また災害時の避難路として、これらの場所から海岸までつながる歩道を設ける。また、初めて訪れる人でも、直感的に避難できるように、道沿いには桜並木を配置する。

「地区を回遊する道」

浪板交流センター前通りを中心とし、既存の道も活用しながら地区の回遊路を整備する。また防集団地や三陸縦貫道、鯨山神社につながる道を、回遊路と接続するように配置する



三陸縦貫道へのアクセス

災害時の救援路と、観光客のアクセス路を確保するために、三陸縦貫道と繋がる道をつくる。また、スマートインターチェンジの設置を目指す。

海岸沿い散歩道の復旧

観光資源として再活用するためにも、津波によって破壊されたベンチなど、海岸沿いの散歩道の施設復旧をおこなう。

<浪板の風景になじむ漁集エリアの高台>

※詳細は3枚目 を参照。

浪板の美しい生活風景を守り、住む人も訪れる人も海的美しさを味わえる場所にするために、元の地形をできるだけ活かした高台の形状と構造形式とする。また、国道や海からの眺めを考慮し道路法面には樹木を配置するとともに、駅前広場からの海の眺めを確保する。

<砂浜と松林の広がる浪板海岸の再生>

浪板海岸は、陸中海岸屈指の海水浴場であり、サーフィンのメッカとして「岩手の湘南」とも呼ばれる町の重要な観光資源のひとつである。この浪板海岸を再生するために、町と地区が一体となって、砂浜と松林の復活を目指した活動をおこなう。

注：現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります

0m 50m 100m
S=1:3000 (A3) S=1:1500 (A1)

■浪板地区 デザインノート（案）

2. 全体計画の考え方に関する住民意見

2WG：第二回地区別WG
3WG：第三回地区別WG
5WG：第五回地区別WG
1WS：第一回地区別WS

<緑に包まれた高台の住宅地>

- ・新設の住宅の中には畑が必要である。浪板らしさともなる(なるべく100坪) (2WG)
- ・農地と家が混在する浪板の風景を残す(5WG)
- ・防集団地の入居者に土地を貸して野菜や花を植えられるようにする(1WS)
- ・農地を貸す場合、防集団地の入居者だけではなく、防集団地周辺に住む人たちの共有スペースとして、有料でもいいの希望者の誰でもが参加できるようにすべき。(1WS)

<市民農園など地区のコミュニティを高める仕掛け>

- ・防集団地の緑地、道路に囲まれた窪地、駅前広場の下などの土地は、町の用地になるとすれば、地元で話し合いを行って、自治会を作って管理するのが良い(1WS)
- ・この仕組みを成り立たせるためには、町と協議できるように、このエリアの方達で集まりをつくる必要がある。その集まりのなかで、使い方のルールについても決めていく必要がある(1WS)

<海岸までの散歩道と、地区を回遊する道>

■道の計画の考え方

- ・つい散歩したくなるように歩行者優先の道にしていく。歩いて楽しむための仕掛けを入れていく。アスファルトだけの道にしない。(5WG)
- ・徒歩や自転車で生活できるまちをつくる(5WG)
- ・桜をたどると避難できるようにしたらどうか(5WG)

■海岸までの散歩道

- ・これまで散歩でコンビニの辺りから海岸に出ていたので、かさ上げした後も、その辺りに降りられる階段があると良い(3WG)
- ・海に出るときに道路だけではなく、ショートカットで出られる歩道が必要(5WG)

■舗装の工夫

- ・車の速度を抑制するために舗装を工夫できないか(1WS)
- ・道路幅員は6m以上にはできないが、路肩の部分だけ舗装パターンを変え、見た目上の歩道を確保することはできる。(1WS)
- ・両側1mずつ舗装を変えて、歩行者の歩く部分を示す(1WS)

■その他

- ・避難路に沿って桜を植えるのも良いが、浪板川沿いにも植えたい。当面利用しないクラインガルテンなどで苗木を育てることもできる(1WS)

<三陸縦貫道へのアクセス>

- ・三陸縦貫道と浪板地区がつながることを前提とした町づくりをしたい(2WG)
- ・P Aアクセス道路から三陸縦貫道路に常時乗り降りできるようにしたい。スマートインターを整備できないか(1WS)

<浪板の風景になじむ漁集エリアの高台>

※詳細は3枚目を参照。

- ・擁壁などの構造物はなるべく樹木などで隠して、元々の浪板らしい雰囲気を残す(5WG)
- ・浪板の場合は漁集のかさ上げそのものが津波の高さの痕跡となる。それが桜で覆われていればなお良い(1WS)

<砂浜と松林の広がる浪板海岸の再生>

- ・昔の磯浜、砂浜、松林を再生したい。また海岸で散歩できるように動線を確保したい(2WG)
- ・かつて海岸の階段護岸の所に公園があったので復旧をしてほしい(5WG)
- ・砂浜を再生することは交流人口の増加につながるし、町長の言う「つい散歩したくなる」町にもつながる(1WS)

注：現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります

浪板地区 デザインノート（案）

3. 漁集エリア周辺の計画の考え方

<浪板の風景になじむ漁集エリアの高台>

浪板の美しい生活風景を守り、住む人も訪れる人も海の美しさを味わえる場所にするために、元の地形をできるだけ活かした高台の形状と構造形式とする。また、国道や海からの眺めを考慮し道路法面には樹木を配置するとともに、駅前広場からの海の眺めを確保する。

災害公営住宅

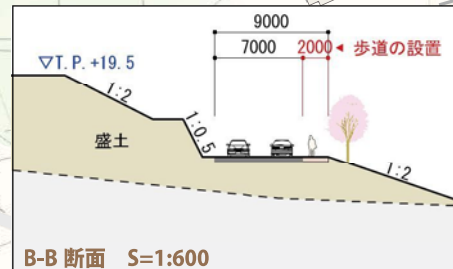
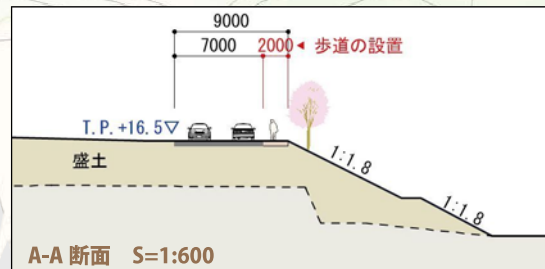
海を望み中庭のある住宅配置とする。また駅前広場からの海の眺めを確保するために、駐車場は駅前の通りに接して配置し、住宅の近くに車の荷降ろし場を設ける。

海を望む駅前広場

駅に降り立った瞬間に「来て良かった」と思える広場にするために、災害公営住宅の駐車場や緑地も活用し、海を眺められる駅前広場とする。またここには、昭和8年の津波記念碑を移築し、今回の津波記念碑と並べて配置する。詳細の検討は住民の方々の意見を伺いながら行う。

駅前広場から海岸までつながる歩道

住民も来訪者も駅から海まで散歩できるように、駅前広場から、弓形道路を通り、海岸までつながる歩道と、浪板川に降りる歩道（階段）を設ける。また避難時の目印にもなるように、歩道側の法面に桜を植える。



バス停

地区のみんなが利用しやすいように、できるだけ標高の高い位置に設ける。

地区住民で管理する広場と市民農園

地域コミュニティの絆を高めるために、災害危険区域の町有地を活用して、地区住民が管理する広場、子供グラウンド、市民農園を設ける。

浪板の風景になじむ擁壁・法面と桜並木

浪板地区の景観を壊さないような擁壁の構造と材料を選定する。また、国道や海岸からの眺めも考慮し、道路法面には桜並木を配置する。法面はラウンディングを施す。

災害公営住宅と新設道路（旧児童館）

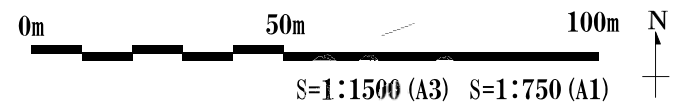
旧児童館に、災害公営住宅を設ける。また地区内の行き止まり道路を減らすために、地区と浪板交流センター前の通りをつなぐ道路を設ける。

浪板交流センター前通りと、海岸までつながる歩道

地区から海岸やコンビニに行けるように、浪板交流センター前通りから海岸につながる歩道を設ける。また、漁集エリアに上がる階段も設ける。この道は、普段の散歩道でもあり、災害時における海からの避難道でもある。また、浪板交流センター前通りは、歩行者優先の道にするために、舗装の工夫をおこない、避難時の目印にもなるように、道路法面に桜を植える。



国道45号



注：現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります

4. 漁集エリア周辺のイメージと住民意見



<駅前の空間・災害公営住宅>

- ・昭和8年の昭和三陸津波の高さを示す1～2mの碑が消防屯所の前にあった。それを駅前の広場に置いてはどうか(1WS)
- ・災害公営住宅の駐車場を下に取る方が、駅前からの空間に広がりが出て良い。駅前広場から海が望めて景観的に良い。(1WS)
- ・災害公営住宅の入居者はお年寄りが多くなる見込み。荷物を持って2.5mの階段を上がるのは大変なので、住宅近くに荷物を降ろせるスペースを確保して、車を下の駐車場に戻してもらえるようにしてはどうか(1WS)

<グラウンドと市民農園>

- ・弓型道路と取付道路の間の窪地は家庭菜園にして貸し出す(5WG)
- ・防集緑地と同様にクラインガルテンなどとして利用すれば良い(1WS)
- ・自治会を作ってクラインガルテンを管理する(1WS)
- ・花などを植えれば国道45号から美しく見える(1WS)
- ・半分は子どもが使えるようにして、半分はお年寄りがゲートボールなどをできるようにする(1WS)
- ・子供たちの遊び場については、弓形道路と取り付け道路に囲まれた窪地が良いだろう(1WS)
- ・窪地の使い方は地元で考えてもらえば良い(1WS)

<バス停留所>

- ・バス停は駅前道路と弓形道路の交差点が良い。45号沿いよりも、より安全な場所と言える。地域の方々もそれで良いと言うだろう(1WS)

<消防屯所>

- ・西、東の地区の幹線道路のどちらにも出られる場所なので、ここで良いのではない(1WS)

<避難路にもなる桜並木の散歩道>

- ・歩道の脇に桜を植えるのは良い(1WS)

2WG：第二回地区別WG
5WG：第五回地区別WG

3WG：第三回地区別WG
1WS：第一回地区別WS



注：現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります

平成 25 年度大槌デザイン会議成果 大槌デザインノート

策定経緯・参加者名簿

2013 年

全体会議と地区別ワーキング会議
を同時開催〔第3回をのぞく〕

3月 3月14日
第1回デザイン会議
(第1回地区別ワーキング会議)

6月 6月26日
第2回デザイン会議
(第2回地区別ワーキング会議)

8月 8月21日
第3回デザイン会議
(遠野視察会)

10月 10月17日
第4回デザイン会議
(第3回地区別ワーキング会議)

11月

12月 12月19日
第5回デザイン会議
(第4回地区別ワーキング会議)

デザインノートが出来るまで（作成経緯）

地区別ワーキングを個別開催

※「拡大地区別ワーキング会議」は、デザイン会議
委員以外の方にもお声がけして開催した会議です。

11月15日
吉里吉里地区別ワーキング会議 個別開催①
11月23日
安渡地区別ワーキング会議 個別開催①
11月27日
小枕拡大地区別ワーキング会議 個別開催①
11月30日
沢山拡大地区別ワーキング会議 個別開催①
12月6日
安渡地区別ワーキング会議 個別開催②



2014 年

2月

3月 3月4日
第6回デザイン会議

2月5日
浪板拡大地区別ワーキング会議 個別開催①
3月4日
町方地区別ワーキング会議 個別開催①
沢山地区別ワーキング会議 個別開催②
浪板地区別ワーキング会議 個別開催②

大槌デザイン会議（景観まちづくり部会） 委員

番号	氏名	役職	所属
1		教授	東京大学大学院工学系研究科
2		准教授	東京芸術大学大学院美術研究科
3		准教授	東京大学大学院工学系研究科
4	岩崎 松生	大槌町議会議員	町議会代表
5			町方地区住民代表
6			沢山・源水・大ケ口地区住民代表
7			安渡地区住民代表
8			赤浜地区住民代表
9			小枕・伸松地区住民代表
10			吉里吉里地区住民代表
11			浪板地区住民代表

地区別ワーキンググループ

地区別コーディネータ

地区名	氏名	役職	所属
町方		教授	東京大学
		助教	東京大学
沢山・源水・大ケ口		助教	東京大学
安渡		助教	東京大学
赤浜		准教授	東京大学
		助教	東京大学
小枕・伸松		助教	東京大学
吉里吉里		准教授	国土舘大学
浪板		准教授	国土舘大学

アドバイザー

湧水		准教授	大同大学
----	--	-----	------

地区別ワーキンググループ委員

地区名	氏名	備考
町方		
		住民代表
沢山・源水・大ケ口		
		住民代表
安渡		
		住民代表
赤浜		
		住民代表
小枕・伸松		住民代表
吉里吉里		
		住民代表
浪板		住民代表